

目 次

巻頭言

子どもたちの確かな学びと豊かな育ちのために

～地域密着型教育推進事業実践報告集の刊行にあたって～

八戸市教育委員会 教育長 松山 隆豊 1

第1章 事業の概要

第1節	地域密着型教育推進事業基本構想図	2
第2節	地域密着型教育推進事業2年間の歩み	3
第3節	学校教育指導の方針と地域密着型教育	7
第4節	モデル指定校11校の取組状況	8
第5節	モデル指定校校長アンケート	14
第6節	モデル指定校教頭アンケート	18

第2章 柏崎小学校(平成20・21年度モデル指定校)の記録

第1節	地域密着型教育実践の歩み	
	柏崎小学校校長	築瀬 眞知雄 21
第2節	学校支援活動実績	25
第3節	「地域密着型教育」の浸透を目指して	
	～平成21年度学校だより～	29

第3章 第一中学校(平成20・21年度モデル指定校)の記録

第1節	地域密着型教育実践の歩み	
	第一中学校校長	伊藤 博章 35
第2節	「地域密着型教育」実践に込めた思い	
	～第一中ホームページ「校長のつぶやき」より～	39

第4章 地域密着型教育フォーラムの記録

第1節	基調講演	
	学校・地域連携の意義と視点	
	～八戸市地域密着型教育推進事業の特色と課題～	
	日本大学 文理学部教授	佐藤 晴雄 51
第2節	柏崎小学校発表資料	55
第3節	第一中学校発表資料	60

第5章 各研究団体の分析した「地域密着型教育」

第1節	学校・保護者・地域が密着し、生徒の確かな学びと豊かな育ちに資する協力体制のあり方	
	八戸市中学校教頭会	64
第2節	地域密着型教育推進事業と学校関係者評価の実際	
	八戸市小学校教務主任会	68

あとがき

地域の子どもを地域全体の力で～地域密着型教育を通して～

八戸市教育委員会 教育指導課長 前田 稔 71

子どもたちの確かな学びと豊かな育ちのために

～地域密着型教育推進事業実践報告集の刊行にあたって～

八戸市教育委員会教育長

松 山 隆 豊

地域社会の絆が薄れつつある現代社会にあって、厳しい時代をたくましく生き抜くための「生きる力」を子どもたちが身に付けるためには、多くの人とのふれあいの中でさまざまな体験をすることにより、生の感動や驚きを実感することが何よりも大切です。しかしながら、近年の社会現象の変化に伴い、地域や家庭の教育力が十分に発揮しにくい状況が生じており、教育を巡る環境は厳しさを増しております。

そのような中、八戸市教育委員会では地域密着型教育を導入することとし、平成20年度から2年間、モデル指定校において、学校・家庭・地域社会がこれまで以上に連携して活動できるシステムづくりに取り組んで参りました。また、将来的には全市的に導入することを視野に入れていることから、全市一律のものではなく、学校が地域の実態に即して活用する際に参考となるモデルが提示できるよう、その多様性を意識して取り組んできております。

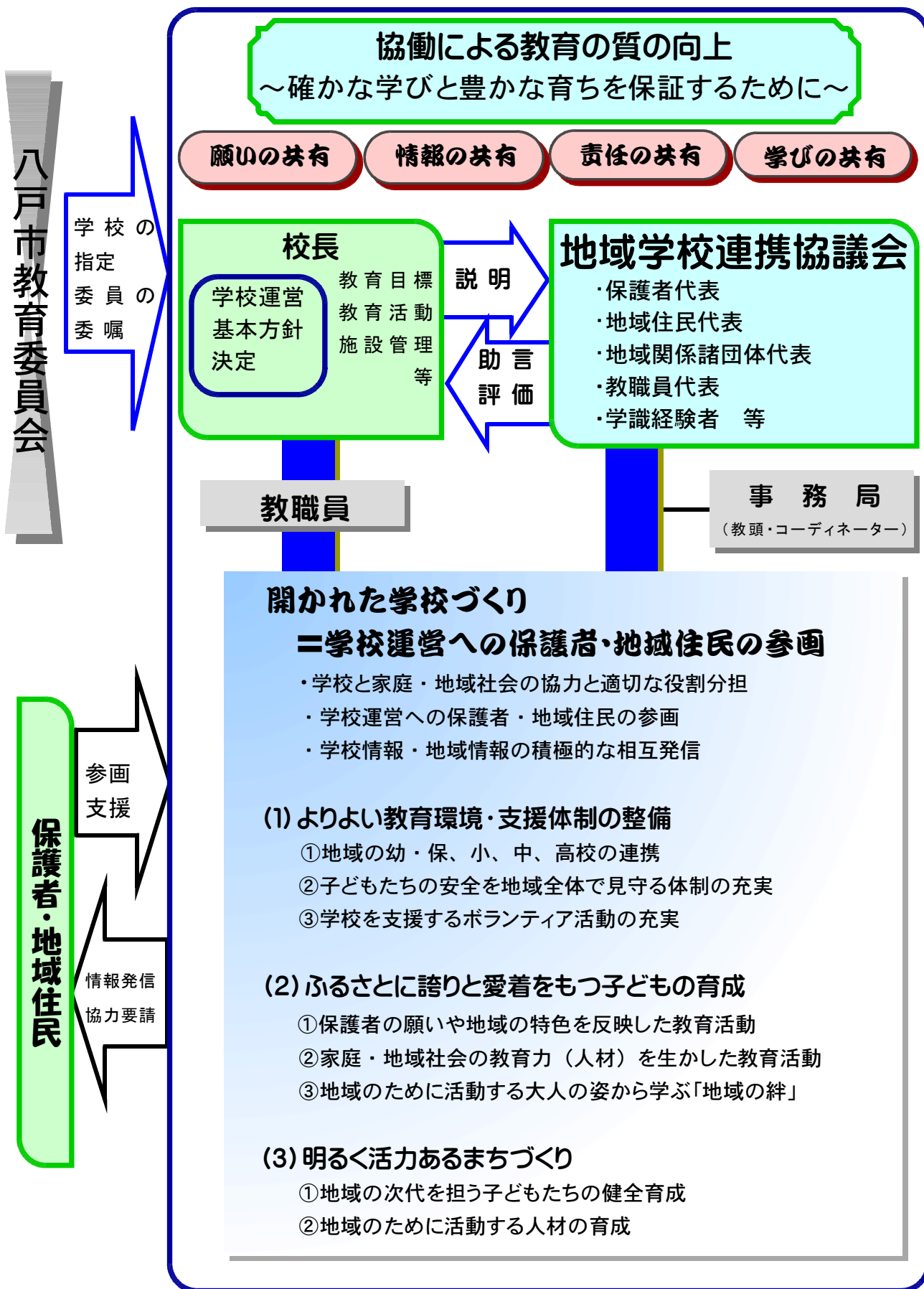
地域密着型教育を通して、学校と保護者・地域の皆様が「願い」「情報」「責任」「学び」を共有することで、保護者や地域の皆様の願いを生かした特色ある教育活動を展開することが可能となります。そのことにより、学校教育の質が高まり、子どもたちの学びがより深く、より豊かになることが地域密着型教育の第一の目標であります。また、地域密着型教育を通して、「八戸に生まれてよかった、八戸で育ってよかった」と、ふるさとに誇りと愛着をもつ子どもが育つことも期待しております。さらに、保護者や地域の皆様が学校運営に積極的に参画することにより、地域で活躍する人材が開拓され、明るく活力あるまちづくりに貢献できればと願っております。

この実践報告集には、モデル指定校としての2年間、新たな道を模索してくださった柏崎小学校と第一中学校の実践を中心に、今年度の新規モデル指定校9校を合わせて、11校の熱い思いが込められています。それぞれの学校において、児童生徒の実態や地域の特色、保護者の願いを精一杯受け止め、「地域の子どもを育てる」という意識をもって取り組んでくださいました。モデル指定校の校長先生をはじめ、学校と一心同体となって取り組んでくださった関係各位に対しまして、改めて厚く御礼申し上げます。

今後、市内各校において、この実践報告集を参考に、それぞれの学校の特性を生かした取組が推進されますことを心から願いまして、ご挨拶といたします。

第1章 事業の概要

第1節 地域密着型教育推進事業基本構想図



第2節 地域密着型教育推進事業2年間の歩み

1. 八戸市教育委員会の方針

(1) 基本理念 「夢はぐくむ ふれあいの教育 八戸」

豊かでうるおいのある生涯学習社会の形成に向け、「生きる力」を身に付けた子どもと、郷土を愛し、自立の精神と国際感覚に富む人材の育成をめざした教育の充実に努める。

(2) 義務教育の充実 「個を生かし、学ぶ喜びをはぐくむ学校教育の充実」

創意に満ちた特色ある学校経営のもと、家庭・地域社会と連携し、「いのちの教育」を基底に「生きる力」をはぐくむ教育活動を組織的・計画的に進める。

- ①「わかった！できた！」が実感できる授業づくり
- ②「いのちの教育」を基底に据えた心づくり・体づくり・人間関係づくり
- ③学校種間の連携及び家庭・地域社会との連携による開かれた学校づくり

(3) 開かれた学校づくりの施策

①地域密着型教育推進事業（モデル指定校での2年間の検証）

- ・「地域の子どもは地域ではぐくむ」という基本理念のもと、学校運営に保護者や地域住民の願いを生かした特色ある学校づくりを充実させる。
- ・子どもたちの確かな学びと豊かな育ちを保証するため、学校・家庭・地域社会が子育てを共有し、それぞれの役割と責任を自覚して一貫した方針で取り組む。

②幼保小連携推進事業、小・中学校ジョイントスクール推進事業

- ・子どもの発達段階や学びの連続性を踏まえ、中学校区内の小学校と中学校の連携はもちろん、幼稚園・保育所(園)や高校との接続にも配慮した協働体制を構築する。
- ・家庭との連携を深め、学習習慣の確立並びに主体的に学習に取り組む態度の育成に努める。

③学校関係者評価

- ・学校評価を実施し、その結果の公表に努める。
- ・家庭や地域社会に対してこれまで以上に積極的に情報発信する。

2. 地域密着型教育推進事業モデル指定校の取組

(1) 趣旨

学校運営に関する八戸市教育委員会及び校長の権限と責任の下、地域学校連携協議会を設置し、学校と地域住民・家庭の双方向の信頼関係を深め、その教育力を相互に高め合うことにより、児童生徒の確かな学びと豊かな育ちに資する。

(2) モデル指定校における取組（平成20・21年度）

「地域学校連携協議会」を立ち上げ、その話し合いを通して、地域や保護者の意見を学校運営に反映させる仕組みをつくる。将来的に全市導入することを視野に入れ、モデル指定校における実践を通して、保護者および地域住民の学校の運営への参画の在り方についての研究を行う。

- ①教育活動における学校・家庭・地域社会の一層の協力体制の構築
- ②「開かれた学校づくり」の推進
- ③「地域ぐるみの教育」への支援を通してのまちづくり

(3) モデル指定校並びに指定期間（太字の学校は学校支援地域本部事業活用校）

- ・平成20年度から2年間の指定…**柏崎小学校、第一中学校**
- ・平成21年度から1年間の指定…
八戸小学校・**吹上小学校**・長者小学校・**中居林小学校**・旭ヶ丘小学校
島守小学校・**第三中学校・根城中学校**・島守中学校

学校支援地域本部事業（社会教育課）

①事業の要旨

地域全体で学校教育を支援する体制づくりにより、地域の大人が多く関わることで多様な体験、経験の機会が増えたり、規範意識やコミュニケーション能力が向上したりする効果が期待され、かつ、教員がより教育活動に力を注ぐことができるようになり、学校教育の充実を図ることができる。さらに、地域住民が自らの知識や経験を生かす場が広がり、生涯学習社会の実現や地域の教育力の向上を図ることができる。

②学校で活用できる予算

- ・地域教育協議会の開催（講師謝金・旅費・会議費等）
- ・コーディネーター活動経費
- ・消耗品費、通信運搬費、ボランティア活動保険費
- ・パソコン・プリンタ等借り上げ料 等

地域密着型教育と関連する諸事業

- ・学校評議員制度（平成21年度末で廃止）
- ・学校関係者評価（地域密着型教育推進校においては地域学校連携協議会で実施）
- ・学校施設開放事業運営協議会
（地域密着型教育推進校においては地域学校連携協議会で実施）
- ・特色ある学校づくり支援事業（平成21年度末で廃止）
- ・さわやか八戸グッジョブウィーク事業（市内全小・中学校で実施）
- ・幼保小連携推進事業（市内全小学校区で実施）
- ・小・中学校ジョイントスクール推進事業（市内全中学校区で実施）

(4) モデル指定校2年間の成果と課題

＜成果＞

①地域住民や保護者の意見を吸い上げやすくなった。

地域学校連携協議会の話し合いを通して、学校に対する素朴な疑問や建設的な提言が話題に上るようになり、学校の課題を地域住民・保護者が共有し、その解決に向けて、一緒に取り組もうとする姿勢が一層顕著になった。

②地域の特色を生かした教育活動を通して地域に誇りと愛着をもつ子どもが増えた。

柏崎小では、70%を超える児童が地区のことに興味関心をもつようになり、地域行事への参加者は60%から75%へ増加するなど、地域への愛着を感じる子どもが増えている。

③よりよい教育環境が整えられた。

知的環境としての学校図書館が整い、子どもの読書意欲や学習意欲が高まった。また、さまざまな教育活動に保護者や地域住民が参加するようになり、子どもの安全見守りが充実したほか、多様

な教育活動を展開することや、個々の児童生徒への指導を充実させて授業内容の定着を図ることが、より可能となった。

④地域に貢献できる人材の育成につながっている。

PTA活動が活性化した。学校の教育活動に関わってくださる地域の方の人数・回数が増加し、やって楽しいと感じている。PTA委員会同士の情報提供や協力が生まれ、それぞれの活動が子ども・保護者・地域住民に伝わってきている。また、子どもが地域の方の顔を覚え、活動を知ることにより、将来的に地域に貢献できる大人になっていく。

＜課題＞

①参画意識の向上

学校の教育活動をボランティアに支援してもらうことだけが、本事業の目的ではない。よりよい学校づくりのため、保護者や地域住民の願いや意見を反映させ、協働で実践しようとする「真の参画意識」を高めるため、「開かれた学校づくり」を一層推進することが必要である。

②職員の負担軽減

地域学校連携協議会の会議の他、地域住民や保護者と連携した教育活動を充実させるための会議や打合せの時間も必要であり、教職員の負担軽減のための施策を講じる必要がある。

特に、学校支援地域本部事業を活用し、有償のコーディネーターを配置できた学校と、同事業が活用できず、校内の教職員がコーディネーター役を務めたり、校外の人材に無償のコーディネーターを依頼したりしている学校とでは、会議の運営や資料準備等で教職員の負担感に差が見られただけでなく、地域住民や保護者への周知活動においても違いがあった。

今後、各校が地域密着型教育の理念を生かした学校経営を推進する上で、長年にわたって持続可能なシステムとして定着させるためには、有償のコーディネーターを配置することが必要である。

③学校と家庭・地域社会の双方向の情報発信

学校の教育活動について積極的に情報発信するとともに、ホームページや回覧板など、発信の手立てや対象についても工夫することが必要である。また、地域住民や保護者の意見や願いを拾い上げる機会を更に充実させていくことが大切である。

④ボランティアの裾野の拡大

スタッフが固定化し、負担が増えている部分はある。推進校においては、活動の裾野を広げるためにも、参加して楽しい活動を工夫するとともに、保護者や地域住民に対する一層の周知が大切である。

(5) 地域密着型教育が地域にもたらす効果

地域密着型教育が目指す理想は、学校・家庭・地域社会が一体となってお互いを高め合うことにより、学校教育活動の質を向上させ、子どもの確かな学びと豊かな育ちに資することにある。

①ふるさとに誇りと愛着をもつ子どもの育成

本事業を通して、子どもたちの地域との関わりが増えることにより、ふるさとのよさに気付き、ふるさとに誇りと愛着をもつ大人に育つことが期待できる。

②明るく活力あるまちづくり

地域ぐるみの教育活動を展開することを通して、地域で活躍する人材が育ち、明るく活力あるまちづくりにつながることが期待できる。

③大人たちの姿から学ぶ「地域の絆」

子どもたちのために一生懸命活動する保護者や地域住民の姿は、地域社会の絆を大切にする精神を子どもたちにはぐくむ上での「生きた教科書」である。

- 第 1 章 事業の概要 -

(6) 「協働のまちづくり」との関連

当市では、「協働のまちづくり」を推進しており、各地域において、市民と行政の協働によるさまざまな取組が展開されている。

市教育委員会としては、「学校づくり」と「地域づくり」「まちづくり」が相互に関連しあうものであることをふまえ、今後も、「協働のまちづくり」の理念を学校運営や学校教育活動に生かし、地域密着型教育を積極的に推進して行く予定である。

<江陽地区の例>

- ・平成 20 年度から「地域づくり会議」がスタート
- ・「安全安心づくり事業」や「人づくり事業」等の活動を通して、地域の未来を担う子どもたちの健全育成に対する地域住民の意識が高まった。
- ・江陽小学校・江陽中学校では、平成 22 年度から地域密着型教育をスタートする予定である。

(7) 今後の方針と支援体制

①モデル指定校から「地域密着型教育推進校」へ順次拡大

②原則として学校が導入を希望、市教育委員会が推進校を指定

これまでの検証により、地域住民や保護者の意見を学校運営に積極的に生かそうとする校長の姿勢が事業成功の可否を握っていることが明らかであることから、推進校の指定にあたっては、学校からの希望を第一にする。

③推進校は「地域学校連携協議会」を立ち上げる

④組織のあり方や専門部会の内容は、各校の実態に応じる

⑤平成22年度以降の新規推進校に対しては、それぞれの地域の実態に応じた地域学校連携協議会の組織の在り方について、市教育委員会が助言・支援

- ・推進校に対しては、準備委員会での話し合いを通して、保護者や地域住民が学校や地域の課題について共通理解するとともに、めざす学校像を明確にすることができるよう支援に努める。
- ・地域密着型教育の理念を理解してもらうため、連合町内会や公民館、防犯協会など、地域のさまざまな団体に対して、積極的に周知を図る。
- ・学校の負担軽減のために、事業の整理・統合を視野に入れて各種施策の内容を吟味する。
- ・消耗品費やコーディネーターの配置等、物的支援・人的支援を図る。

<コーディネーターの職務内容>

- ①地域学校連携協議会委員等への案内の作成・印刷・発送
- ②地域学校連携協議会議事録の作成・管理
- ③学校支援ボランティアバンクの作成・保険手続き
- ④各専門部会の全事業についての案内文作成・発送・参加ボランティアの掌握
- ⑤地学連協だよりの作成・全町内会への配付
- ⑥各専門部会で使用する用紙類や消耗品等の購入・会計処理
- ⑥授業等でボランティアが必要な教科・内容・時期の確認・調整
- ⑦学校が必要とするボランティアの開拓
- ⑧ボランティアへの連絡・日程調整
- ⑨研修
- ⑩その他

第3節 学校教育指導の方針と地域密着型教育

豊かでうるおいのある生涯学習社会の形成に向け、「生きる力」を身に付けた子どもと、郷土を愛し、自立の精神と国際感覚に富む人材の育成を目指した教育の充実に努める

個を生かし、学ぶ喜びをはぐくむ学校教育の充実

「わかった！できた！が実感できる授業づくり」＝確かな学び

学校では

- ・校内研修を軸に、よりよい授業づくりに努めます。
- ・個別の教育的ニーズに応じた指導に努めます

市教育委員会の主な施策

- ・学校訪問（計画訪問・要請訪問）
- ・総合教育センター研修講座
- ・特別支援教育アシスト事業

地域密着型教育によって……

- ・きめ細かな指導により、各教科の学習内容がより定着します。特に家庭科や書道などで高い効果が期待されます。
- ・生活科や総合的な学習の時間等の体験的な活動が充実します。
- ・個に応じた補充的な学習をサポートする体制が整います。

「心づくり・体づくり・人間関係づくり」＝豊かな育ち

学校では

- ・道徳や体育の時間を中心に、全教育活動を通して、子どもの心と体を健全育成に努めます。

市教育委員会の主な施策

- ・幼保小連携推進事業
- ・小中学校ジョイントスクール推進事業
- ・さわやか八戸グッジョブウィーク事業
- ・いのちをはぐくむ教育アドバイザー事業

地域密着型教育によって……

- ・いろいろな大人と触れあう機会が増えることで子どもの世界が広がります。
- ・さまざまな体験活動を通して、子どもの感性が磨かれ、人と触れあう力が育ちます。

「開かれた学校づくり」＝地域に信頼され、地域と共にある学校

学校では

- ・学校の情報を積極的に発信します。
- ・家庭や地域社会の願いを学校運営に反映させます。

市教育委員会の施策

- ・学校関係者評価制度
- ・学校施設開放事業
- ・教育支援ボランティア事業

地域密着型教育によって……

- ・学校運営に保護者や地域住民の願いが生かされ、「地域の子どもを育てる学校」の役割がより明確になります。
- ・地域全体で子どもを見守る体制が充実し、子どもが安心して過ごせる環境が整います。

地域の子どもを地域とともにはぐくむ「地域密着型教育」

～すべての取組は子どもたちのよりよい成長のために～

第4節 モデル指定校11校の取組状況

- ①学校・家庭・地域社会が「願い」「情報」「責任」「学び」を共有し、一層の協力体制を構築することにより、児童生徒のよりよい育ちを促す。

八戸小	現 状	本校では「夢・子育て・学校づくり・地域づくり」の共有としている。今年度は、地域学校連携協議会を立ち上げるとともに、学校関係者評価並びに専門部会を行うことができた。評価部会並びに専門部会では有意義な提案とともに、夢を語り合うことができた。
	成 果	協議会立ち上げまでは学校の本気度を試しているような様子も感じられたが、今では保護者並びに地域とも協働の子育てまちづくりをしていこうという機運が感じられる。
吹上小	現 状	ふれあいタイムや図書支援ボランティア、環境整備、生活安全、学習活動等に51名が登録し、積極的に支援活動を行っている。
	成 果	定期的な取組として定着してきた活動もあり、協力体制が確立しつつある。さまざまなふれあいを通して、子どもたちの生き方・考え方についても影響を与えてくれるものと期待している。
長者小	現 状	現在、運営協議会を立ち上げて数か月という状態なので、始まったばかりという感じではあり、手探りの状態で進んでいる。3学期の幼保小連携の事業が楽しみであると委員から言われ、手応えを感じている。
	成 果	「地域密着」という言葉が認知されつつあると感じる。地域の人々のやる気を感じることがある。
中居林小	現 状	地域連携推進委員会を組織し、学校・家庭・地域社会の横のつながりを強化し、児童のよりよい育ちのために、年間 3 回の会議を開催して、相互の情報交換、地域活動、学校関係者評価を行っている。
	成 果	子どもたちのために、という機運が徐々に高まってきている
柏崎小	現 状	地域密着型教育の取組についての周知と理解 地域学校連携協議会の組織、運営 PTA 活動と調整をしながらの各専門部会の活動 地域住民・保護者を巻き込んだ教育活動の実施 学校行事や諸教育活動への地域住民・保護者の協力
	成 果	地域住民が、地域の中での児童の様子を気にかけて、挨拶をしたり何かあると声をかけたりしやすくなっている。 児童が地域住民に挨拶するようになっている。 児童の地域への興味・関心が高まり、地域行事に進んで参加するようになっている。
旭ヶ丘	現 状	「地域密着型教育」のパンフレットを作成し、全保護者に配付し、学校の願いの周知、情報の共有を図った。また、10 月には東北電力後援の八戸市民フィルハーモニーによる「スクールコンサート」開催ができた。保護者はもちろんのこと、地域住民にも参加を

- 第 1 章 事業の概要 -

旭 ヶ 丘 小	現 状	呼びかけた。併せて、ボランティア説明会を開催し、学校支援ボランティアハンドブックを作成・活用して進めた。
	成 果	総合的な学習の時間では、地域の名人とのかかわりを持ち、学びの共有とキャリア教育を推進することができた。スクールコンサートには、これまで以上に子どもたちが保護者と一緒に参加した。
島 守 小	現 状	一年間という時間の中で組織作りから、会の進め方、理解を深め合う努力等を通し、第3回の協議会では活発な意見を交換することができた。
	成 果	小学校・中学校の児童生徒を地域の宝として育てること、そのためには保護者・地域住民の意識をもっと高めていかなければならないということをもとに話し合いをすることができた。
第 一 中	現 状	教育活動支援・学校図書館支援・環境整備支援・情報発信支援の4つのプロジェクトを掲げ、生徒・職員・保護者・地域住民による協働活動をできるだけ設定し、取り組んでいる。人の数よりも、活動に参加してくれた方々の思いを大切にし、活動してきた。
	成 果	地域密着型教育の趣旨が少しずつ保護者や地域住民に理解され、願いや情報の共有も実現しつつある。一過性の活動に終わらないよう今後継続的な取組が必要と考えている。
第 三 中	現 状	同一学区の小学校がモデル校として2年目を迎えるときにモデル指定校となった。混乱を生じないためには1年間の実践を引き継いで進めることが必要と考え、組織等をできるだけ共通にした。「地域密着型教育」の核となるべき「願い」の分析が不十分なまま形をつくることになったが、学校・家庭・地域社会がより強く連携する必要性の理解は深められつつある。
根 城 中	現 状	「どうして地域密着型教育が必要なのか。」少子高齢化社会を迎えて地域社会の構造を学校教育を含めて再構築しなければ、今抱えている社会・環境問題は解決できない。八戸市が市政の一つとして地域コミュニティづくりを行い、この閉塞感を打開しようと試みていることは、的を射た取組である。そういう意味からも、小中一貫教育としての小・中学校ジョイントスクール事業、キャリア教育としてのグッジョブウィーク事業、高齢者や障害者の住みやすいまちづくりのため、地域交流事業、安全安心のための学校支援に環境整備事業等、伝統文化の維持としてのスポーツ文化事業を位置付ける必要がある。本校では、地域学校連携協議会を組織し、学校運営に対しての提言や協力をお願いしている。また、教員と保護者による学校運営協議会を毎月開催し、そこでの協議を通して教育活動の充実を図っている。それらを受けて、校舎環境整備、学校図書館環境整備・読書活動推進、花壇整備、学習等の面で地域ボランティアの支援を受けている。
	成 果	生徒のために地域が一つになって取り組む意識が生まれ、活性化の兆しが生まれた。行政の強い支援のおかげで保護者・教職員が立ち上がり、教育活動を活性化させることができた。小・中学校が一つになって地域密着型に取り組む体制がつけられた。
島 守 中	現 状	モデル指定校を受けたことをまず学校だよりでお知らせした。また、今後より強く学校・家庭・地域社会の連携を図りたいと願っていることもお伝えした。
	成 果	年度当初はなかったが、後半になって地域密着型教育について聞かれるようになった。

島 守	成 果	徐々に関心が広まっている。会議が進むにつれて、前向きで多様な意見が出てきた。このことを実践していけば、子どもたちのよりよい育ちに資すると考える。
--------	-----	--

②学校からの情報発信と説明責任を充実させるとともに、学校評価を生かした「開かれた学校づくり」を推進する。

八 戸 小	現 状	毎月 2 回の学校便りを全町内に回覧し、子どもたちの学校生活や学びの様子を発信することができた。また、6 年生の菊作りでは、作品を本八戸駅や市庁に展示するなど学校から学区への学びの発信もできた。さらに、学校評価部会の提言を受けて学年便りでも子どもたちの学びの様子を発信するなどの改善に向けた努力をすることができた。
	成 果	子どもたちにとって、地域も学びの場とすることで学びの場の拡大とともに地域の先生を得られた効果は計り知れない。全ての学年に拡大し地域文化の継承者として育てていきたい。
吹 上 小	現 状	ボランティアだよりや学校だよりで活動の様子を紹介している。学校施設開放事業の推進や学校行事の公開、学校評価の公表などにより、積極的に説明責任を果たしている。
	成 果	教育についての関心が高まり、学校の教育活動や学校だより等について、いろいろな反応が多くなってきている。
長 者 小	現 状	今年度は、前評議員の方々に学校評価をしていただいた。(地域密着の委員でもある) 行事での評価もさることながら、日常の教育活動における児童・教師・保護者の評価のずれに興味を抱いているようで、学校教育に対する関心が高くなったと思われる。
	成 果	教育用語への積極的な質問があり、関心の高さがうかがえた。
中 居 林 小	現 状	年間 3 回の会議を通して、学校の方針を説明し、学校運営に反映させている。また、参観日、行事、学校公開日等に案内を差し上げ、子どもたちの様子を参観していただき、最後の会議日には、学校評価やアンケートを基に、学校関係者評価を実施し、改善に生かしている。年間 3 回「みどりの風」を発行し、地域連携協議会の取組等の情報を発信している
	成 果	情報発信に対する地域の方々の関心が徐々に高まってきている。
柏 崎 小	現 状	学校の願いや取組、児童の様子などについての情報提供 ・学校だよりの保護者配布と地域回覧・地域学校連携協議会の中での話し合い ・地域諸会議での話題提供や説明 ・地域学校連携協議会の活動内容紹介 等 児童・保護者・教員アンケートの実施と結果の公表(文書、学校だより、参観日) 地域学校連携協議会理事会における学校関係者評価の実施 学校関係者評価内容の報告(学校だより、参観日)
	成 果	地域住民から、「学校の様子がよく分かるようになってきた」「学校に来やすくなった」との評価をいただいている。

- 第 1 章 事業の概要 -

柏崎小	成果	学校や児童について、学校に情報をいただくようになってきている。 保護者・地域住民からの学校運営についての助言は、これまでに学校側が気づかなかった点もあり、意見をもとに改善してきている。
旭ヶ丘小	現状	学校だより、ブログ、安全ニュース等で、情報発信に努めた。また、学校関係者評価を通して、従来以上に保護者・地域住民の考え・意見を吸い上げるとともに、学校の考えの周知を図った。
	成果	教育活動をブログ等で周知できた。保護者の関心が増した。
島守小	現状	第2回での次回予告（アンケート結果についてご意見を伺う等）事前の資料配付を行い、共通理解を深めながら話し合った。
	成果	小・中合同での学校評価を行うということで、話し合いを特に絞って（J Sでの小・中の共通の課題を中心に）、児童の姿、家庭の様子・実態について話し合うことができた。
第一中	現状	情報発信と説明責任については機会あるごとに意識的に充実を図ってきた。毎年、全保護者対象の「教育課程アンケート」の評価を謙虚に受け止め、次年度の学校経営等に生かすよう努めるなど、「開かれた学校づくり」に取り組んできた。
	成果	前年度と比べ確実に保護者の理解が深まりつつある。職員の地域への意識も徐々に高まり地域を巻き込んだ計画や実践が増えてきている。更に細かさめな情報提供を心がけたい。
第三中	現状	情報発信は学校だよりをはじめ諸通信の発行、参観日、そして地区の諸会合での学校の現状や課題の説明により行っている。配布物を保護者以外に届ける工夫が必要である。地域学校連携協議会理事を学校関係者評価委員としている。より一層、学校評価のあり方（分野・内容等）を研究するとともに、評価の目をもつ委員で構成しなければならない。
根城中	現状	地域本部のコーディネーターが中心となって地域に情報発信するとともに、学級だより、ホームページで発信している。また地域学校連携協議会の協議の中で事業報告する形で評価をいただき、改善につなげたいと考えている。
	成果	各団体のリーダー層に理解を求める段階で、地域の協力・支援を取りつけたところである。今後、保護者や町内会・各団体の理解を求めるステージに進むことになる。
島守中	現状	数回の準備委員会を開催したが、学校だよりでその様子をお知らせした。地域学校連携協議会が立ち上がってからも、協議会の様子や内容を保護者・地域住民にお伝えした。第1回で学校経営・学校目標・計画などの方針を説明し、第3回で評価していただいた。
	成果	学校だよりでお知らせしたことにより、地域密着型教育への関心が高まった。学校でやろうとしていることを理解してもらい、評価にあたっては、幅の広い、奥行きのある評価をしていただいたと思う。

③保護者や地域住民の声を学校運営に反映することで、学校教育への参画意識を高めるとともに、「地域ぐるみの教育活動」を通して、家庭・地域の教育力の向上を図る。

八戸小	現 状	保護者や地域住民の声を吸い上げる場として地域学校連携協議会、児童・保護者並びに学校関係者評価、参観日、保護者や地域からの日常の情報提供に対し真剣に耳を傾けてきた。また、届けられた声を学校運営の改善にどのように生かすかについて具体的に説明するなど誠実に応えてきた。
	成 果	保護者並びに地域住民に学校の誠意と具体的な方策が伝わり、家庭や地域が学校の応援団になってきたことを感じるし、協働の子育てを通して家庭・地域社会の教育力の向上につなげていきたい。
吹上小	現 状	P T A活動、地域諸団体ともに積極的で、学校教育への支援に前向きである。地域の協力なくして学校教育の充実・発展がないことを理解していただくとともに、互いの教育力向上を図るように努めている。
	成 果	学校と地域との絆を深めることや、地域の子どもは地域で育てる意識が高まってきている。
長者小	現 状	学校の教育活動を、きめ細かに広報する必要があると感じている。どんなに特色ある活動をしていても家庭や地域に知られていなければ、意見をもつことが少ないのではないのかと感じている。今後情報活動をさらに推し進める必要があると感じている。
	成 果	P T Aとの協力で情報活動を推し進めていきたい。行事だけでなく教育活動への広報活動取材を通して保護者が学校の教育活動を理解する力が高まってきている。
中居林小	現 状	保護者へのアンケートや地域の会合等への参加を通して、地域住民の声を聞くように努めている。もともと学校への関心が高かった方々は積極的に学校と関わってくださっているが、「地域ぐるみ」までには至っていない。学校への参画意識を高めるためには、それなりの仕掛けが必要であり、この点は十分ではなかった。
	成 果	活動自体が一部の方々に偏る傾向が見られる。地域ぐるみにするにはそれなりの時間が必要である。
柏崎小	現 状	地域学校連携協議会の企画会と理事会での協議 地域住民・保護者を巻き込んだ教育活動の実施
	成 果	これまで地域住民や保護者が取り組んできた様々なことが、共通理解され、「子供にかかわってともに活動している」という意識をもち協力し合うようになってきている。 学校教育活動に協力する地域住民・保護者の協力が増加している。 保護者が地域の行事や活動を知って、参加するようになってきている。 町内の役員さんからは、「地域が確実によくなった」との評価を得ている。

旭ヶ丘小	現 状	今年度の取組をもとにして、次年度に向けて、「地域ぐるみの教育活動」を模索していきたい。特に、夏季休業中に開催される旭ヶ丘まつりに学校も一層加われればと考えている。また、本校のごみゼロ運動を地域にも呼び掛けて、拡充していくことも考えている。
	成 果	ブログを見て、協力を申し出る方も数名だが出てきた。支援の輪が少しずつ広がってきている。
島守小	現 状	小・中で「あいさつ・言葉遣い・家庭学習」について重点的に取り上げており、取組の様子について概ね良好という評価をいただいている。
	成 果	家庭内における言葉遣いや家庭学習の評価が低いということは、それが実態であると同時に、子どもの発達の段階をふまえ、「必ずしもそのことがマイナス材料ではなく、この程度でもいいのではないか」という肯定的な意見も出た。
第一中	現 状	保護者には生徒を通して、地域住民には町内回覧等を通して周知を図るなど、保護者や地域住民の参画意識を高める工夫をしている。また、地域の方々が気軽に参加できるように、活動内容も工夫を凝らしながら実施している。
	成 果	「地域ぐるみ」までは至っていないが、参加者の幅も広がり、少しずつ理解されつつある。無理のない活動設定も功を奏し、参加者の反応もよい。今後、参加者をもう少し増やしたい。
第三中	現 状	家庭や地域の個別の声には誠意を持って対応している。学校運営に反映すべき「家庭や地域の声」の集約はうまくできていないのが現状である。ボランティアリストづくりの募集にはあまり反応がなかったが、具体的な活動の募集には保護者を中心に協力者があった。
	成 果	環境整備活動や部活動指導には保護者以外の方々の協力もあった。また、調理実習では各クラスに3名ずつの支援ボランティアがあり、大変効果的だった。ボランティアの方々にもよい経験になったようである。他の分野でもそのような有効な場面を作り出していきたい。
根城中	現 状	敬老会の会場として体育館を提供。地域活動への中学生参加依頼の声を学校運営に反映させ、中学生のボランティア活動としての敬老会の会場運営や受付の手伝いを行った。また、地域で実施している挨拶運動にも参加した。
	成 果	敬老会については、地区の方々の念願が叶えられ、地域での中学校の果たす役割が認められ感謝された。子どもたちも地域への貢献が認められ、達成感を味わうことができた。
島守中	現 状	保護者参観日を利用して、説明を行った。組織についての質問が出たが、小・中が合体したような組織（島守ふるさと応援隊）が小学校の事業にも中学校の事業にも関わっていくことを確認した。何も堅苦しい内容ではなく、今までどおりの連携を基盤にしていけばいい（もっと強固になった）ということを確認し、納得が得られた。
	成 果	最初は構えてみていたが、保護者参観日で説明したことにより、かなり理解が進んだ。今まで以上に学校教育への参画意識が高まった。何よりも小学校・中学校の連携が更に強固なものになっていったのはうれしい限りである。

第5節 モデル指定校校長アンケート

1. 学校運営の方針とモデル指定校の取組の関連

①学校・家庭・地域社会が「願い」「情報」「責任」「学び」を共有し、一層の協力体制を構築することにより、児童生徒のよりよい育ちを促す。(6校)

- ・社会的に自立し、次代を担う子どもたちが生きていく社会は変化の激しいグローバル化の進んだ知識基盤社会である。そのような社会にあって、大切にしたいのは確かな学力であり、他者と協調して生きる力である。確かな学力や協調性を身に付けさせるための地域密着型教育はどうあればよいか。確かな学力は学びの場の拡大を通して行われ、協調は文化を通して行われる。文化の崩壊は社会の崩壊でもある。何よりも重視したのは文化の継承であり、そのためのネットワークの構築である。
- ・これまでも一定の協力体制があったが、一層保護者・地域関係者のご協力をいただいて、児童生徒のよりよい育ちにつなげたかった。
- ・「子どもを育てる」という意識は、常々地域の人たちにもあり、協力いただいている。地域密着型教育を契機に、地域を見直し、子どもを見直し、「こうしていこう」という意識を学校から発信できた。保護者の意識の改革、また、地域のお年寄りを学校に呼びたいという願いを実現されるための場づくりであった。
- ・理屈よりも具体的な取組を充実・発展させて成果を上げることが、保護者・地域住民の理解を図る上で説得力がある。
- ・PTA等による教育支援活動がかなり前から実施されており、新しい視点からの支援体制づくりを模索していた。学校にとって、子どもの教育と直接関わる活動を多く計画できる点がプラスである。
- ・地域諸団体、町内会役員等を通して、地域の方に地域密着型教育を理解していただき、様々な面で協力をいただく。また、地域の方々のこれまでの活動や取組を保護者や児童・教職員に伝え、感謝の気持ちをもたせたい。

②学校からの情報発信と説明責任を充実させるとともに、学校評価を生かした「開かれた学校づくり」を推進する。(2校)

- ・小・中連携による地域密着型教育を推進していることを学校だより等でお知らせすることにより、当事者である保護者・地域住民が学校と離ればなれにならないようにした。また、地域学校連携協議会の中で学校評価をしてもらい、その結果を保護者や地域住民に公開することにより、参画意識が一層高まることを願った。
- ・「地域ぐるみ」にするためには、まず知っていただくことが必要であり、しかも、それを教員の手ではなく、地域の方にやっていただくことが重要と考えて取り組んできた。幸いにも、保護者の方がそれを担ってくださり、好ましい形で展開できた。

③家庭や地域の声を学校運営に反映することで、学校教育への参画意識を高めるとともに、「地域ぐるみの教育活動」を通して、家庭・地域の教育力の向上を図る。(3校)

- ・現段階では目的であっても将来的には教育機能と位置付けたい。
- ・「地域の子どもは地域で育む」という意識を多くの大人にもってもらおう。生徒、保護者等、教職員が協力して活動する場面の充実が生徒の変容を促し、保護者等の参画意識を高めやすい。親は我が子と他の子の活動の様子を同時に見る機会をもつことで、

我が家の子育てを考えるきっかけになる。

- ・学校職員にあまり負担をかけないようにと、配慮しつつ推進してきたが、保護者や地域住民を巻き込んで活動を進めるにあたり、まず、職員が汗を流す姿が不可欠と感じた。少なくとも軌道に乗るまでは、管理職が陣頭指揮をとる気概が必要だと思う。現役の保護者の参画意識も重要である。今、在籍している子どもたちの教育環境整備が中心となる。職員や保護者が核となって努力し、そこに地域住民をまきこんで、「地域ぐるみの教育活動」を展開していくのが、ごく自然の成り行きではなかろうか。職員や保護者が「地域密着型教育」の必要性を真に理解し、参画意識を高めていくことが肝心である。
- ・学校と地域社会、家庭の関係に距離感があることから三者の壁を取り除きたい。地域の団体の連携はとれているが、小中学校と地域との関係がうまくいっていない面がある。地域が学校を中心として子どもたちのために協力・支援する体制が確立されていないことが課題である。

2. 地域密着型教育導入の工程として、特に苦心したこと

- | | |
|---------------------------------------|----|
| (1) 地域密着型教育について教職員・保護者・地域住民の周知を図ること…… | 8人 |
| (2) 地域密着型教育に対するビジョン（理念・組織・活動内容等の原案）…… | 7人 |
| (3) 教職員・保護者・地域住民の理解と協力体制の構築…… | 7人 |
| (4) 会則や組織の在り方についての協議…… | 5人 |
| (5) 導入に伴う教職員の負担の軽減…… | 2人 |
| (6) 地域学校連携協議会委員（理事）の人選…… | 1人 |
| (7) 自校の実態や課題を的確に把握すること…… | 0人 |
| (8) 日程・時間の調整…… | 0人 |
| (9) 地域コーディネーターの確保…… | 0人 |

3. 地域密着型教育導入で苦心したことの具体的内容

① 願いや実態の把握

- ・地域密着型教育を推進する「地域」は学区によって全く異なる場合があり、学区の実態をしっかりと把握し、保護者や地域住民の学校に対する願いを把握した上で進めなければ実のない実践になってしまう。形ありきではなく、保護者や地域住民の声を聞くところからはじめ、少しずつ取り組んでいくことによって、地域密着型教育に参画することの喜びを味わえるようにしていきたい。

② 地域密着型教育の趣旨の浸透

- ・パンフレットよりも口コミ等の温かい声で広げていきたい。保護者や地域住民は連携協議会を立ち上げる段階から積極的で、特に困ったことはない。
- ・評議員経験者の皆さんは、「何ら今までと変わらなく協力するから……」というスタンスなので、学校評議員制度との違いを明確にとらえてもらうまで時間を要した。

③ 負担感の軽減

- ・地域も保護者も教員も協力的で、また意欲をもっていたため困ったことはなかった。何事もしっかりした方針のもと、日常的な連携活動を進めていくことが基盤であり、地域密着は特別なことではなく、当たり前のことだと考える。ただし、負担感の増大については留意しなければならない。

- ・地域密着型教育推進事業に関わる諸会議や打ち合わせ等は勤務時間外になる現状がある。一方で、「時間外・休日労働の解消」や「勤務時間の短縮」の問題がある。コーディネーターの指導や対応は教頭が中心になって行っている。
- ・小学校では PTA 活動への参加率が高いと思うが、中学校で保護者の参加を促すのはなかなか大変である。勢い、特定の保護者に過重負担となっているのが現実である。参加者する保護者をもう少し増やしたい、そのための方策を今後、検討したい。
- ・教頭なくしてこの地域密着の運営は難しいのが現状。コーディネートできる人材を育てることも重要であり、行政での研修会等の機会を設けてほしい。

④コーディネーターと予算

- ・地域コーディネーターは確保できたが、謝金等の関係でうまく活用できなかった。
- ・コーディネーター養成講座などの研修会を開催してほしい。そのことによって PTA や中心人物の役割が理解できると思われる。
- ・地域密着型教育を推進する上で、大切になるのは学校・家庭・地域社会を結ぶネットワークの構築とパートナーシップの発揮と考える。地域学校連携協議会というネットワーク化を学区内に広げ、学校教育の活性化と地域づくりに結びつけていくためには、情報発信に必要な経費は必要である。

⑤委員の人選

- ・地域学校連携協議会委員の人選にあたり、妥当な人材が少なく、結局は地域の要職にある方々をお願いした。要職にある方々は多忙であり、高齢化が著しい。これからの新しい学校運営を論ずる場として、肩書きにとらわれない若い人材の発掘も必要と痛感している。しかし、地域を巻き込んで活動を推進していく上で、肩書きを無視して地域への浸透を図ることが難しいのも現実である。今後、学校評議員等の役割を兼ねた地域学校連携協議会ということを考えた場合、この人選はますます重要性を増してくると思われる。

⑥市教育委員会の方針

- ・八戸市の地域密着型の理念は、市として確立される必要がある。市としての人づくり、地域づくり、学校づくりを、それぞれがばらばらに行っているように見える。まちづくりのソフト面、ハード面の両面について、教育委員会と行政部局とが議論し、一致した取組として展開することが必要である。
- ・課題は住民一人一人がボランティアに参加し、住みよいまちづくりをしたい。
- ・どんなまちづくりをするのか、山・海・川に囲まれた自然と産業都市、国際都市として賑わい活気のあるまち八戸、それらを支える人づくりとしての学校。これらの議論なしのそれぞれの取組については、学校経営者が希望をもち、ビジョンを描けない。校長会と市教育委員会、市長事務局関係との協議の場を設定してビジョンを明確にすることが必要である。

⑦小中の連携

- ・小・中での話し合いを深めるための時間と場をなかなかとれなかった。
- ・先に中学校でスタートしていたので、地域の理解が容易で、組織づくりもスムーズに進んだ。

⑧学校評価

- ・学校経営の内容理解や評価に関して、たくさんの資料を用意しても理解が深まることにはならない。たくさんの資料の中から絞り込み、分かりやすい形で提示することも大切である。

4. 今後、市内の各小・中学校が地域密着型教育を進めるうえで必要なこと

- | | | |
|----------------------------|----|----|
| (1) 校長の地域密着型教育に対するビジョンと牽引力 | …… | 9人 |
| (2) 教頭を助ける地域コーディネーターの確保 | …… | 9人 |
| (3) 地域密着型教育に積極的なPTA会長等の存在 | …… | 6人 |
| (4) 教頭のコーディネート力 | …… | 5人 |
| (5) 地域密着型教育の組織の工夫 | …… | 2人 |
| (6) 地域の中の協力委員等の存在 | …… | 2人 |

5. 地域密着型教育の業務を主に担当した教職員等

仕事内容	校長	教頭	教務	コーディネータ	その他
①案内発送および会議資料の作成	3	1	3	3	
②地域の人材確保および依頼	5	6	1	5	
③会議の設定・準備・進行	3	1	5	3	1
④組織づくり	8	8	4		3
⑤広報活動	2	8	1	4	2
⑥学校評価部会資料作成・運営		1			
⑦人材育成評価		1			
⑧地域諸団体関係会議出席	1	1			1
⑨地域諸団体、町内会との事前打ち合せ	1				
⑩4大プロジェクトの推進					4

6. 市教育委員会の方針や支援体制等についての要望・意見

①地域密着型教育の趣旨の浸透・理解（上記3①を参照） ・今後継続的な推進を図る観点から、地域への浸透を図るためには教育委員会の周知活動も大切である。また、教職員の率先垂範の姿勢がなければ、保護者や地域住民の理解も協力も得られない面があるし、なにより説得力に欠けてしまう。 ②予算の裏付け（上記3④を参照） ③コーディネーターの確保と養成（上記3④を参照） ④教育委員会の事業の整合性を図ること（上記3⑥を参照） ⑤その他 ・とても先進的な取組であるが、教育改革を行っていることの目的・意義が理解されていないことが残念だ。改革にはエネルギーが必要だ。必要性を理解し使命感をもつ管理職の育成が必要である。行政の積極的な取組について、校長として使命感を感じている一人として、これからも応援していきたい。 ・八戸市教育委員会の方針をもとに、自分たちの学校での取組についてどのようなことができるかを具体的に助言してもらって助かった。

第6節 モデル指定校教頭アンケート

1. 地域密着型教育に関する業務の負担

仕事内容	特に問題ない	負担に思う
1 案内発送および会議資料の作成	7人	4人
2 地域の人材確保および依頼	7人	4人
3 会議の設定・準備・進行	8人	3人
4 組織づくり	5人	6人
5 広報活動	10人	1人
6 その他		3人

2. 特に負担が大きかったもの

＜小学校教頭会＞ ①地域の人材確保および依頼 ・本校では、校長とPTA会長が相談しながら人選し、地域密着型教育について説明した上で打診し、了承をもらった。この部分は特に慎重に進めなければならないので、校長が担当したほうがいい。 ・地域にどのような方が住んでいるのかの把握が難しい。 ②事業を進める手順 ・まず、先進校や全国の事例などを調査し、本校に合った組織をつくりあげるのに時間を費やした。 ・これまでの諸教育活動、PTA活動、地域行事、地域諸会議などの洗い出しをし、それらをどう組織としてまとめていくかということ。 ③小・中の連携 ・小中連携型の事業として進めるにあたって、小・中が共通理解して会議資料を作成することや時間調整が難しかった。来年度は見通しをもち、仕事内容を分担するなどして軽減を図りたい。 ＜中学校教頭会＞ ○概して「負担に思う」が多くを占めているが、とりわけ「地域の人材確保」「組織づくり」の難しさを懸念している。実際動き始めるには、必要不可欠なものだからである。 ○モデル指定校の意見としては、「組織づくり」の苦労は多い。また、実践されていない学校の「会議の運営」問題なしに対し、モデル指定校では実際に会議が増えたり、夜遅くの会議・会合のため、負担感が高いようである。 ○自由な意見の大半が、「地域の人材確保」「組織づくり」と「教頭の多忙感」を懸念しているものである。
--

○今までないものに取り組むわけであるから、少なくとも負担は減ることはない。我々が考えていかなければならないのは、いかに機能的に無駄を省いた運営を行うかだ。

○しかし、逆の考え方もある。今まで以上に、学校に目を向け協力してもらうわけだから、多少の負担は仕方がない。むしろ、必要なことなのかも知れない。いずれにしても、ただ忙しくなったのでは、やる意味もなくなる。それを払拭できるのは、成果が現れ、達成感や満足感が得られるようになることである。

3. 地域密着型教育を進める上で必要なこと

- | | | |
|----------------------------|----|-----|
| (1) 校長の地域密着型教育に対するビジョンと牽引力 | …… | 10人 |
| (2) 教頭を助ける地域コーディネーターの確保 | …… | 10人 |
| (3) 地域の中の協力委員等の存在 | …… | 5人 |
| (4) 教頭のコーディネート力 | …… | 4人 |
| (5) 地域密着型教育に積極的なPTA会長等の存在 | …… | 3人 |
| (6) 地域密着型教育の組織の工夫 | …… | 1人 |

4. 教頭として苦労したこと

①趣旨の浸透・理解

- 地域密着型教育の趣旨を理解してもらうこと(対保護者 教師)
- すでに保護者、地域との良好な関係ができあがっていたため、「いまさらあえてやる必要があるのか」といった気持ちが保護者及び教職員側にあり、なかなか積極的になれなかったこと

②情報の共有・連携

- 会議の開催日程調整
- PTAの方々と地域住民との情報交換を密にする手立て
- 組織や体制、ボランティア等の決め事は簡単だが、それをいつまでに、だれが、どうやるのかを決め、計画的・主体的に動いてもらうように働きかけること
- 小・中学校で打合せをして進めるための日程調整や資料準備
- コーディネーターとの打ち合わせ時間(授業をしているので)

③組織作り

- 教育ボランティアに何を頼むか、学校の考え・計画等
- 地域密着教育において推進すべきプロジェクトまたは活動の柱となるものを絞り込むこと
- 学校支援本部事業が先行していたため、コーディネーターの選定は済んでおりスムーズな活動が進んでいたが、地域教育協議会のメンバーと地域学校連携協議会のメンバーをできるだけ同じにすること。(組織や会議を増やさないために)

④事務処理

- 設置要項の作成

5. 新規に推進する学校の教頭へのアドバイス

- 一人で事業を立ち上げることは無理。校長・教務主任と夢を共有しながら、それぞれ分担しあって、仕事を進めていくこと。
- 地域ごとに、学校ごとに特色があると思うので、そのよさを生かした組織づくりを考えていくこと。
- 大まかな案や計画ができれば、市教育委員会の担当者と連絡を取り合い、アドバイス等を受けながら進めていくこと（勝手に進めないこと）。
- 会議の回数が多くなり、資料作成や時間をとられることなど、そのときは大変と思うが、資料として取組や状況などを整理しているうちに、子ども・保護者・地域住民・教員のよい変化が見えてきて、自信をもって資料づくりにあたることができる。
- 各団体の横の連携がないので、子どもたちの育成のために各団体で何ができるかを再確認しながら、活動を活性化するために、推進委員会を運営していく。そのような趣旨で進めていくと無理なくスタートできる。
- しっかりした地域コーディネーターの確保がとても大切である。
- 地域の諸団体との交流を積極的にもつとよい。
- 学校規模や地域の様子にもよるが、地域にある学校という考えのもと、組織作りを十分に話し合う必要がある。教頭がコーディネーターの場合、校内においての事務関係の協力者が必要である。地域学校連携協議会の回数は少ないので、特に学校評価については、あらかじめ資料を渡しておく等が必要。話し合いにおいては項目を絞りすぎず、地域における自分の立場からの意見も話せるようにする配慮が必要である。
- 校長の方針やビジョンを確認し、校長のリーダーシップのもと、指示・指導を受けて進める。職員会議や校内研を活用し、共通理解を図る時間を十分に設定する。推進の中核となる職員（教務主任や各部の主任）と意思疎通を図り、協力し合う。地域コーディネーターや地域の核となる方々の協力を得る。

6. 市教育委員会の方針や支援体制等についての要望・意見

- ①コーディネーターの配置
 - コーディネーターがいないと非常に苦しく、やってよかったと思えないものになる可能性がある。やればやるほど、コーディネーターの稼働時間と消耗品費が増える現状である。
 - 教頭の負担軽減のためにも、コーディネーターの配置が必要である。限られた時間の中で、いつ頃、どのタイミングで活動してもらうかを考える。
- ②予算配分
 - 推進委員会の活動資金を検討していただきたい。
 - 消耗品等の予算がないと大変である。
- ③多忙感が増幅しない運営の仕方
 - 今行っている家庭・地域社会との連携事業を、いかに「地域密着型教育」に移行するかを考える。
 - 過重負担を押さえるために、職務のスリム化を図る。

第2章 柏崎小学校の記録

第1節 地域密着型教育実践の歩み

柏崎小学校 校長 築瀬 眞知雄

研究テーマ 地域密着型教育の推進

～We Love柏崎 地域とともに歩む学校づくり～

1 はじめに

本校は、八戸市地域密着型教育推進事業モデル指定校として、平成20年度と21年度、学校・地域社会・家庭が連携して地域密着型教育を推進し、本校のシンボルである「柏の木」のようにしっかりといのちをリレーし、心身ともにたくましく生きる児童の育成を図ってきた。その取組概要を以下に記す。（平成21年度の取組概要は第2節参照）

2 本校の地域密着型教育のねらい

- (1) ふるさとに誇りと愛着をもつ子供を育てる。
- (2) 地域に積極的にかかわる職員となる。
- (3) 地域ぐるみの教育活動を進め、地域に貢献できる学校をつくる。
- (4) 地域関係団体、PTA、ボランティア等の活動の輪を広げる。

3 平成20・21年度の取組重点

- (1) 地域密着型教育の理解と周知、地域学校連携協議会の組織作りと活動の活性化を図る。
- (2) 地域社会、家庭、学校が連携・連帯して、ふるさとに誇りと愛着をもつ子供を育成する諸活動を展開する。

4 ねらい達成のための取組の概要

- (1) ふるさとに誇りと愛着をもつ子供に育てるために、地域学習を生活科・総合的な学習の時間の主単元とし、保護者や地域住民とふれ合いながら体験的な地域学習、準備やまとめの学習を計画的に展開する。全職員が、校内研修で、全体計画や指導計画の作成、授業研究などを行い、取組の改善と充実・深化を図る。

1年生：地域の中の学校	2年生：地域のたんけん・まつり
3年生：地域のたから	4年生：地域の福祉
5年生：地域の安全	6年生：地域の歴史

- (2) 地域に積極的にかかわる職員になるために、教員自身が地域に足を運んで自ら体験し、そこで分かったことや感じたことを学習に生かす。

- ①校内研修で全教員が地域学習に取り組み、地域の自然や施設、文化、人材を活用した授業や単元作りを積極的に進め、子供とともに地域に出かけて学ぶ。
- ②家庭科や社会科などの授業でも、地域のゲストティーチャーや保護者による授業支援ボランティアを積極的に活用する授業実践を行う。
- ③日常の地域の安全状況把握、事故等の問題発生時には即現場に出かけて確認する。
- ④地域関係の会議、行事運営などに進んで協力する。

(3) 地域ぐるみの教育活動を積極的に進めて地域に貢献できるできる力量をつけ、地域住民から信頼される学校となるようにする。

①地域学校連携協議会の理事会・企画会・専門部会で、学校・地域社会・家庭の共通理解を図る。

【理事会】地域代表・保護者代表・教員代表の16名の理事で組織する協議機関で、地域住民・保護者・教職員それぞれの立場から、子供や地域の様子についての話し合い、活動状況の共通理解、学校関係者評価と学校に対する助言などを年3回行う。

【企画会】専門部会の取組の状況を把握し、地域学校連携協議会全体の活動の企画と調整をする。

【専門部会】4つの部会（交流連携部会・環境整備部会・安全安心部会・教育活動部会）がそれぞれ、複数のPTA委員会と関係のボランティア、地域の方々とで、従来の活動を継続・発展させる形で活動する。

【全体会】地域住民・保護者・教員全員が集まり、地域学校連携協議会の取組等を共通理解する。

②学校や地域の行事、諸教育活動を行い、地域の大人と子供、あるいは地域の子供同士が学校内外で触れ合う機会を作る。

連合町内会・柏崎小学校共催の区民運動会 校外子ども会の組織 ゲストティーチャー
青少年生活指導協議会主催の三世代交流ウォークラリー・ジュニアリーダー研修会
芭蕉堂まつり 三社大祭・えんぶりへの参加と教材化 幼保小連携交流
小・中学校ジョイントスクール事業 八戸盲・聾学校との日常の交流学习 等

③学校だよりや地域学校連携協議会だより等の町内回覧、町内関係会議参加などで、情報提供を多くする。また、地域の行事や公民館の取組などを、児童・保護者に積極的に紹介する。

（平成21年度の地域学校連携協議会の活動の様子は第3節参照）

(4) 地域関係団体、PTA、ボランティア等の活動の輪を広げる。

【交流連携部会】

父親の会主催のエコサマーフェスタ 合同演奏会

【環境整備部会の活動】

除草・校内清掃・枝伐り・校庭整地等の奉仕作業 資源回収
図書ボランティアによる図書貸し出し支援、図書室整備 等

【安全安心部会の活動】

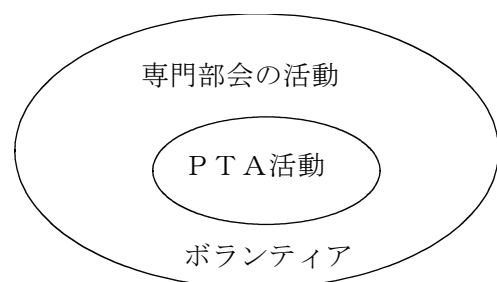
校外子ども会及び集団下校指導への協力
安全パトロール協議会・防犯協会・PTA 防犯ボランティア等による日常や有事の巡回活動 学校行事等の際の交通安全指導 等

【教育活動部会の活動】

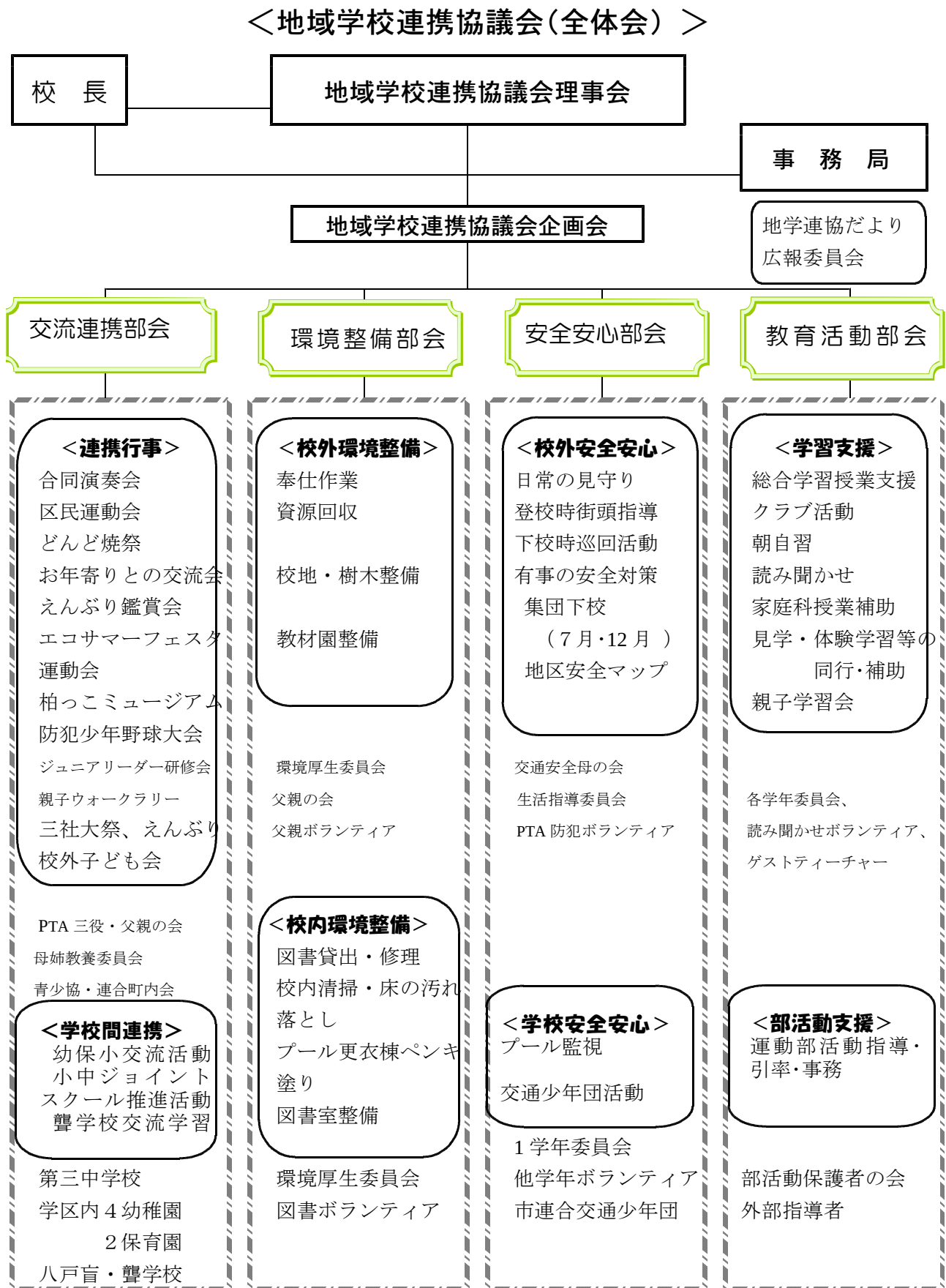
教育活動ボランティアによる授業補助（家庭科、生活科、総合的な学習の時間等）
図書ボランティアによる読み聞かせ活動 等

(5) PTA活動と専門部会の活動との関連

PTAの活動は、従来通り行う。専門部会の活動は、PTAのほか、地域関係団体、ボランティアの皆様によって行われている。つまり、より多くの人によって行われ、人の輪、活動の輪が大きくなる。そのことが、子供たちの教育活動を支援する大きな力となっている。



(2) 地域学校連携協議会組織図



5 活動の成果

(1) ふるさとに誇りと愛着をもつ子供が育ってきた。

① 20年度と21年度の児童アンケートから

- ・ 柏崎地区のことに興味をもったり調べたりしている子供が兩年とも70%を超えている。
- ・ 行事参加など、地域のためになることをやっている児童は、昨年度の60%から今年度は75%に増加した。

② 生活科・総合的な学習の時間における児童の自己評価カードから

- ・ これまで何気なく利用したり、見かけたりしていた施設・文化、人物や自然を、「柏崎の宝」として意識し、誇りに思う言葉が数多く表現されている。

(2) 地域に積極的にかかわる職員になってきた。

① 地域学習に出かけた教員自身が、子供とともに新たな発見と感動体験をしていることが、地域を教材化する楽しさと、次の学習取組への意欲と工夫改善につながり、子供の一層の感動体験を生んでいる。

② 地域とかかわる教育活動についての話し合いや運営協力が活発に行われ、ともに地域を盛り上げようとする意識がつくられてきている。

③ 地域の道路や危険箇所なども把握しているので、説得力のある指導になり、地域巡回を自ら行って、子供の安全を考えた実践をしてくれている。

(3) 地域ぐるみの教育活動を進め、地域に貢献できる学校になってきた。

① 現在、学校の教育活動にかかわってくださる地域の方は、町内会長や防犯関係者をはじめ、実に多彩である。これは、学校が地域の方にとって来やすくなっていることの表れといえる。

② 地域の方々から、「区民運動会が盛り上がり、大変よかった」「地域の行事への参加者が増えた」「子供から挨拶されるようになった」という喜びの声が聞かれ、また、新たな地域行事には学校への協力依頼があり、頼りにされてきていると言える。

③ 理事会で、教職員・保護者・地域住民が、子供の様子や取組、子供をめぐる大人の様子や活動状況、問題等を共有し、意見を出し合うことで、「ともに地域の子供を育てている」という意識が生まれてきている。

④ 子供が地域の方の顔を覚えたり活動を知ったりすることで、学校を離れても挨拶したり声をかけたりする児童が増えてきた。

(4) 地域関係団体、PTA、ボランティア等の活動の輪が広がってきた。

① 地域関係団体や住民が学校教育活動に協力することが当然のように行われるようになった。

② 4つの専門部会が、いろいろな課題解決をしながら取組み、ボランティアの数と種類が増加した。

③ ボランティアの方が「やって楽しい」「役に立てて嬉しい」と感じながら活動するようになり、自ら次回の活動を希望する声も聞かれる。



6 おわりに

成果は確実にみえてきており、教職員・地域住民・保護者それぞれがその成果を実感している。もちろん、例えばPTA活動との関連や負担感の増大などの解決しなければならない課題もある。しかし、希望をもって、前向きに、粘り強く、地道に取り組んでいくことが大切だと考えている。

これからも、地域とともに歩む学校づくりをさらに推進し、学校が、地域社会・家庭と願いを共有し、少しずつ課題を解決しながら、ふるさとに誇りと愛着をもつ子供の育成に努めていく。

第 2 節 平成 2 1 年度 of 取組概要及び学校支援活動実績 (柏崎小・第三中)

期 日	小学校	* 中学校
H21,4,30(木)	小中 JS 総会・第 1 回研究会	授業参観、組織と今年度の計画について
H21,5,9(土)	環境整備部会 草取り奉仕作業、校庭の丸太撤去作業	
H21,5,19(火)	教育活動部会 クラブ活動ゲストティーチャー打合せ	
H21,5,29(金) (合同)	第1回理事会(第三中と合同開催) ・小・中顔合わせ ・これまでの取組状況 ・2 年目の取組の重点 *第三中学校の理事委嘱状交付・第1回理事会 *・専門部会等組織	
H21,6,9(火)	安全安心部会 ・防犯ボランティア顔合わせ会	
H21,6,18(木)	第1回企画会 ・専門部会の取組状況 ・今後の予定 【教育活動部会】 ・家庭科の授業支援ボランティア ・5 年生の校外活動ボランティア ・読み聞かせボランティア ・今後の支援活動 【安全安心部会】 ・学校行事、PTA 行事での巡回予定 ・土日の巡回強化 ・日常のパトロール強化 * 休日の校庭使用について ・休日でも校庭を使わせたい。 * 夏休み中の学習ボランティアについて ・学習クラブを開催できないか。 【環境整備部会】 ・プール更衣棟のペンキ塗り予定 ・樹木の枝伐り予定 【交流連携部会】 ・区民運動会の工夫改善 ・第三中学校との連携強化 ・盲聾学校との連携強化 ・幼保との連携強化	
H21,7,7(火)	環境整備部会 ・図書ボランティア(図書室清掃奉仕活動等) 16名	
H21,7,16(木)	安全安心部会 ・校外子ども会・集団下校の際の安全見守り活動、巡回パトロール等 地域関係者・保護者 55 名 保護者の参加増	
H21,7,26(日)	PTAエコサマーフェスタ3 (柏崎公民館「紙飛行機飛ばし講座」同時開催) 交流連携部会 ・運営・作業等の手伝い 安全安心部会 ・午後 7 時終了後の安全見守り活動、巡回活動等	
7,25~26	交流連携部会 ・青少協「ジュニアリーダー研修会」 小 21 名 中 1 名参加 昨年より増	
7 月 ~ 8 月	安全安心部会 ・プール監視ボランティア(安全見守り、ラジオ体操指導等)のべ 24 名	
H21,7,27(月)	* 第三中第 1 回企画会 専門部会 部長・副部長紹介と活動内容	

- 第2章 柏崎小の記録 -

期 日	小学校	* 中学校
H21,8,18(火)	小中 JS 第 2 回研究会	共通実践事項と実態調査について
H21,8,23(日)		* 第三中学校草取り奉仕作業 * 第三中学校地域密着型教育パンフレット発行
H21,9,1(火)	柏崎地区幼保小連携推進情報交換会 ・校舎補強・改築	・園児・児童交流活動
H21,9,6(日)	柏崎地区区民運動会 交流連携部会	・学校、地域と話し合って改善工夫したことを実践 (住民参加促進、閉会式までの児童参加、昼食弁当持参、閉会式での行進実施等)
8 月～ 9 月	教育活動部会 安全安心部会	・各学年の生活科の授業、総合の授業での支援・補助活動 ・ゲストティーチャー ・安全見守り、指導補助
H21,9,18(金)	環境整備部会	・プール更衣棟美化作業協力案内プリント発行 ・校内清掃奉仕協力案内プリント発行
H21,9,25(金)	柏崎地区幼保小連携交流会	2 年生活科「おまつりひろば」 ・学区内 3 幼・保育園 聾学校 地域関係者
H21,9,27(日)	柏崎地区青少協、社会福祉協議会主催「三世代交流事業 親と子のウォークラリー」	・親子、5 年生と教員参加で従来より大幅増
H21,10,3(土)	環境整備部会	・プール更衣棟ペンキ塗り作業 ・校内清掃奉仕作業
H21,10,7(水)	第2回企画会	・学校への感謝と希望のメッセージボード (児童・保護者から寄せられたメッセージの選定) ・これまでの活動状況 ・今後の活動予定
4 月～ 1 0 月	1 0 月までの主な学校支援ボランティアの状況 【教育活動部会】のべ215人 ・クラブ活動ゲストティーチャー ・生活科、総合の授業支援、校外活動補助 ・家庭科授業支援 ・読み聞かせ ・幼保小連携交流会補助 【安全安心部会】のべ152人 ・学校行事、PTA 行事等での巡回 ・校外子ども会、集団下校指導 ・日常のパトロール ・救命救急講習会参加	(「地域学校連携協議会だより」) 【環境整備部会】のべ196人 ・図書整備、清掃 ・校内清掃 ・プール更衣棟ペンキ塗り 【交流連携部会】のべ48人 ・校外子ども会参加 ・エコサマーフェスタ手伝い ・区民運動会参加 ・親子ウォークラリー参加
H21,11,9(月)	第2回理事会 ・これまでの取組状況 ・学校関係者評価の実施(資料：学校教育アンケート結果) ・今後の活動予定 ・地域密着型教育フォーラムでの発表予定	

- 第 2 章 柏崎小の記録 -

期 日	小学校	* 中学校
H 2 1 , 1 1 , 1 2 (木)	小中 JS 第 3 回研究会 児童・生徒実態調査結果について (インフルエンザ対応のため、9/30 予定を変更して実施)	
H 2 1 , 1 1 , 1 7 (火)	教育活動部会 小中 JS 「日本の心コンサート」 第三中体育館 4 ～ 6 年、地域、保護者参加 (中 1 年はインフルエンザ対応で不参加)	
H 2 1 , 1 1 , 2 0 (金)	八戸市地域密着型教育フォーラム 於 南郷文化ホール・スウィングベリー南郷 ・ 柏崎小学校・第一中学校の 2 年間の取組発表 本校：「We Love 柏崎 ～地域とともに歩む学校づくり～」 ・ 講演：「地域密着型教育が目指すべき方向性」 講師：日本大学文理学部教授 佐藤春雄氏	
H21,12,1(火)	* 第三中学校第 2 回理事会 学校関係者評価	
H21,12,3(木)	全体会(参観日を活用) ・ 地域密着型教育フォーラムの報告(説明とビデオ放送) 2 年間の取組の成果と課題の報告 ・ 学校関係者評価の公表と説明	
H22,1,16 (土)	第 30 回記念柏崎小学校合同演奏会 塩町えんぶり組出演	
H 2 2 , 2 , 8 (月)	柏崎地区幼保小連携推進情報交換会 ・ 校舎補強・改築 ・ 園児・児童交流活動	
H 2 2 , 2 , 9 (火)	第3回企画会 ・ 今年度の取組状況 ・ 今後の予定 ・ メッセージボードについて	
H22,2,15(月) (小中合同開催)	第3回理事会(第三中学校と合同開催) 柏崎小地域連携室 17:00 ・ 今年度の取組状況 ・ 学校運営への助言 ・ 来年度の取組について	
H22,2,16(火)	みどり幼稚園訪問 (校長・教員)	
H22,2,17(水)	地域密着型教育への取組成果により八戸市第 1 回教育実践功労表彰校(活動部門) 受賞	
H22,2,19(金)	えんぶり鑑賞会 (塩町えんぶり組来校)	
H22,3,1(月) 参観日	全体会(参観日を活用) ・ 今年度の取組状況 (児童の地域学習への取組 理事会内容報告) ・ 小中共通実践事項アンケートによる児童の実態)	
H22,3,9(月)	校舎移転増改築記念メッセージボード除幕式	
H22,3,12(金)	環境整備部会 図書室清掃ボランティア活動	
H22,3,13(土)	環境整備部会 校内清掃ボランティア活動	

学校支援活動実績 年間集計表

平成22年 2月 5日現在

	男		女		計
地域住民	55	(946)	39	(123)	94 (1069)
保護者	23	(184)	303	(2240)	326 (2424)
計	78	(1130)	342	(2363)	420 (3493)

()はのべ人数

学校支援ボランティア活動状況(のべ人数)

活 動 内 容		のべ人数
教育活動部会	クラブ活動ゲストティーチャー	55
	5学年家庭科裁縫	68
	5学年総合的学習(安全マップ・学区探検)	33
	4学年総合的学習(高齢者・障害者疑似体験)	16
	2学年お祭り広場(幼保園児お世話)	11
	3学年総合的学習(地域宝物調べ)	42
	6学年総合的学習(ゲストティチャー)	2
	6学年家庭科裁縫	25
	2学年スケート教室	26
	1学年豆まき	9
	部活動外部指導者・補助	1371
	読み聞かせ	131
安全安心部会	集団下校(7/16、12/17)	97
	防犯パトロール エコサマーフェスタ(7/26)	5
	PTA防犯ボランティアパトロール巡視	288
	安全安心パトロール(青色回転灯車)巡回	420
	柏崎地区防犯パトロール協議会巡視	45
	類家防犯協会パトロール巡視	156
	プール監視	24
環境整備部会	図書室整備	116
	校内清掃(10/3)	68
	プール更衣棟美化作業(ペンキ塗り)	26
	校庭枝伐り	26
	草取り	145
	図書室清掃	14
交流連携部会	幼保園児との交流活動補助(2学年お祭り広場)	11
	校外子ども会(7/16、12/17)	61
	合同演奏会広告掲載募集	151
	区民運動会(9/7)	36
	ウォークラリー(9/28)	7
	どんど焼祭(1/11)	3
	エコサマーフェスタ	10
	幼保情報交換会	6
計		3,504



幼保園児との交流(21、9、25)



障害者疑似体験(21、9、17)



集団下校(21、7、16・12、17)



枝伐り(21、11、21)

PTA各委員会や関係団体等の既存の活動については一部のみ計上、支援募集に対して任意で活動して下さった方の実数を計上している。

第3節 「地域密着型教育」の浸透を目指して 《「平成21年度学校だより」より 地域学校連携協議会関係記事抜粋》

学 校 通 信	発行 平成21年4月～22年2月 編集 八戸市立柏崎小学校 八戸市立柏崎二丁目5番31号 Tel 43-2263・2264 文責 教頭 赤石和枝
---------	--

柏小だより

*** 地域学校連携協議会コラムより抜粋 ***

【4 月】

地域学校連携協議会（1）

本校が「地域密着型教育推進事業モデル校」に指定されて、2年目に入りました。この事業推進の中核となる柏崎小学校地域学校連携協議会には、安全安心部会・環境整備部会・教育活動部会・交流連携部会の4つがあります。それぞれのPTA専門委員会 は、その部会の一つに属しています。

安全安心部会

生活指導委員会
交通安全母の会
地域関係団体
ボランティア

環境整備部会

環境厚生委員会
父親の会
ボランティア

教育活動部会

学年委員会
部活動保護者の会
ボランティア

交流連携部会

広報委員会
母姉教養委員会
地域関係団体
ボランティア

草取りやプール監視など、できるだけ多くの保護者にご協力いただきたい場合もあり、その都度ご案内いたしますので、ご協力いただける場合にはよろしくお願いいたします。

今年度、お陰様で全保護者の皆様に5つのPTA専門委員会のいずれかに属していただきましたが、できるときにできる範囲内でのご協力で結構ですので、学校と子供たちの応援隊として、どうぞよろしくお願いいたします。

【5 月】

地域学校連携協議会（2）

第三中学校地域学校連携協議会発足 5/29

今年度、第三中も市の地域密着型教育推進事業モデル指定校となり、準備が進められてきました。

5月29日には、第三中理事の方への委嘱状交付式の後、柏崎小・第三中第1回理事会を合同で開催し、初顔合わせをしました。地域の方々は本校理事と共通です。

今後、本校の地域連携室を拠点として、小・中が協力し合って諸活動を進めていきます。その取組の様子などについては、随時お知らせしていきます。

教育活動部会

クラブ活動でお世話になっている皆さんです。

- 囲碁・将棋クラブ 小ケロ澄夫
西原 正徳（新）
- 茶道クラブ 笹垣 陽子 久保田恵子
- ソフトバレークラブ 類家 玲美

各部会の活動が始まっています

環境整備部会

運動会前に行われた草取りでは、PTA 環境厚生委員会の方を中心に、多数の保護者・教員・児童が奉仕作業をしました。1時間の間に大変きれいになりました。

同時に、父親の会を中心に、校庭丸太の一部撤去作業が行われました。古くて危険なもの、危険だったものの2本です。ありがとうございました。

安全安心部会

PTA 防犯ボランティアをPTA 生活指導委員会を中心として現在募集中です。

6/9に、地域の関係諸団体の方も含めて防犯ボランティア顔合わせ会を行う予定です。

交流連携部会



小中連携の取組として、小・中ジョイントスクール推進事業をこれまでも行ってきましたが、今年度は次のことを重点にして小中一緒に取組んでいきます。

- ◎気持ちのよい返事や挨拶ができる
- ◎話をしっかり聞き取ることができる
- ◎家庭学習ができる
- ◎自他の生命を大切にできる
- ◎目標をもち、粘り強く努力することができる

芭蕉堂まつり 6/13～14

類家地区にある芭蕉堂公園では、毎年6月に、類家連合町内会主催で芭蕉堂まつりが行われ、短歌・俳句・川柳の作品展示、野点、尺八や詩吟披露等をします。今年は13～14日です。本校では、子供たちの感性を育てるためにたくさんの子供たちが作品づくりに取り組み、応募しました。是非足を運んでみてください。

[6 月]

地域学校連携協議会（3）

6/18 第1回企画会で話し合われたことをお知らせします。

今年度の専門部会組織

□ PTA 専門委員会の委員長が変わったところがあるので、それに伴い PTA 会長より指名していただきました。

教育活動部会	部 長	小ヶ口澄夫
	副部長	西原 正徳（新）
環境整備部会	部 長	佐藤 博之
	副部長	長根美智子（新）
安全安心部会	部 長	竹ノ子隆昭
	副部長	塚原 郁子（新）
交流連携部会	部 長	福士 良樹
	副部長	村田いづみ

【教育活動部会】

- 授業におけるボランティアの動き
家庭科の授業支援 12学級にのべ33名
5年生の校外学習補助 学年委員会のほかに7名
読み聞かせボランティア 17名（OBの方も継続）

【環境整備部会】

- 樹木の剪定は自分たちで行いたい。
- プール更衣棟の壁は、古くても大事に使いたいので、今年何らかの方法で補修したい。

【安全安心部会】

- 特に学校行事があったときの下校の仕方が気になるので巡回を多くしたい。
- 土日の公園等のパトロールを増やしたい。
- 学校の避難訓練に地域も参加できるか考えたい。

【交流連携部会】

- 区民運動会の昼食の問題について、お弁当を持てさせるのはどうか。学校と体育振興会とで話し合って改善したい。
- 運動会のように区民運動会も行進するようになりとてもよかった。

【その他】

- 学校の校庭で日曜日に遊ばせたい。
- 夏休み中の何日か、親のボランティアで学校で学習クラブを開催できないか。

[7 月]

地域学校連携協議会（4）

子供たちが楽しく取り組んでいる地域学習の紹介

- 【1年】「まずは学校を知ろう」ということで、授業や休み時間に校内をお友達と探検。公園の使い方も勉強しています。
- 【2年】「柏崎の自慢大会」ではたくさんの柏崎地区のよさを発表。今は塩町の屯所に行って、山車の太鼓をたたかせてもらっています。冬にはえんぶりの舞も体験する予定です。
- 【3年】塩町の山車づくりの様子を見学し、山車を飾る木に花をつける手伝いをしました。
- 【4年】「柏崎の福祉関連施設や設備」を調べています。
- 【5年】町内ごとに作成した地図が、校外子ども会で大活躍でした。
- 【6年】「合掌土偶」の見学で、歴史への興味関心を大きくしました。

7/16 充実していた校外子ども会

校外子ども会では、町内会、地域関係諸団体、保護者の皆様と子供たちが顔合わせをし、危険箇所や行事等について話し合ったりゲームをしたりして交流を深めました。その後、類家防犯協会、柏崎地区パトロール協議会、類家交番、町内会役員、地域諸団体役員、保護者の皆様方、合わせて60余名の方々と一緒に集団下校を行いました。本当にありがとうございました。今後とも、「地域の力で子供たちをはぐくむ」ためによりしくお願いいたします。

[8 月]

地域学校連携協議会（5）

***** 夏休み中のプール監視、ありがとうございました。*****

1年生の保護者の皆様、並びにたくさんの保護者ボランティアの方々にご協力いただきました。暑い中、ご苦労いただきましたことに、心より感謝しております。お陰様で大きな事故もなく、利用児童数は、14日間でのべ2501名、1日平均約179名ほどになりました。

***** 第三中・柏崎小 ジョイントスクール推進事業 *****

今、本校と第三中学校では、目指す子供の姿を下記のように決め、共通してその指導に取り組んでいるところです。特に家庭学習については、きちんと習慣化されるように重点的に進めていきます。

（1）めあてをもって、根気強く学習に取り組む児童生徒

宿題・読書等の家庭学習にめあてをもって取り組むことができる。

具体的には①テレビ等をつけずに、集中して取り組んでいる。

②毎日、宿題を必ずやり遂げている。

③「家庭学習の手引き」を使って学習したり読書をしたりしている。

④学年に応じた時間は学習している。

「家庭学習の手引き」
を配布します。

（2）礼儀正しく相手を思いやる行動を取ることができる児童生徒

校外で、気持ちのよい挨拶と、時・場・相手に応じた言葉づかいができる。

公共のルールを守り、いじめを許さない強い気持ちと態度をとることができる。

（3）柏崎地区に誇りと愛着をもつ児童生徒

柏崎地区のことに興味をもち、地域のためになることを進んですることができる。

学校と家庭とが協力して取り組めば、必ず子供は変容してきます。これらの項目について、ぜひ、ご家庭でも話し合っていたいただきたいと思います。

[9 月]

地域学校連携協議会（6）

***** ぶどうのセレモニー 9/15 *****

本校の自慢の一つであるぶどうが今年もたわわに実り、ぶどう棚の前で喜びのセレモニーをしました。「ぶどうのように一つ一つが丸く、ぶどうのように一つの房になって、〜〜」これは、「ぶどうの詩」の一部ですが、今年はなんと1年生がすっかり暗記してみんなの前で披露し、大きな拍手を受けました。その後、園芸委員会の皆さんが収穫し、給食の時間に全校でいただきました。

***** 1年生や年長児と交流 2年生生活科「おまつりひろば」 9/18・25 *****

2年生が企画した「おまつりひろば」は、グループで作ったミニ山車展示やたくさんの出店やら、楽しい工夫がいっぱい。1回目は1年生と塩町山車組の差波さんと木村さんを招待し、2回目は学区内の3つの幼稚園・保育園の年長児82名を招待しました。見返しまでつくっているミニ山車、地域の特徴を生かしたり日用品を活用したりとアイデアあふれる出店に、幼稚園・保育園の子供たちは大喜び。おみやげまでありました。ボランティアでお手伝いしたお母さんも、「我が子の成長を感じます・・・」と嬉しそうでした。



***** 「やってみたらたのしいわ！」教育活動支援ボランティア *****

今年度は特に、どの学年もたくさんの地域や保護者のボランティアに授業を支えていただいています。6年総合（正部家種康氏、久水英一氏）、5年総合（保護者7人）5・6年家庭科縫い物（延べ33人）4年総合（社会福祉協議会6人、保護者14人）、2年生活科（9人）などです。授業が終わった後はどの方も「楽しかった」と言ってくれます。何よりも、ちょっとの支援で子供たちの「わかった！できた！」という声が多くなるのが嬉しいことです。読み聞かせボランティアも好評です。

***** 環境整備ボランティアにもご協力を 10/3 *****

古い校舎だから大切にしたい、きれいにして感謝したい、そういう願いで行う校内清掃とプール更衣棟美化作業の奉仕活動です。過日、募集したメッセージも集まっています。何しろ人手が必要です。お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、お隣のおじちゃん・おばちゃんもみんな集まればとてもありがたいです。どうぞ声をかけ合って、少しでも早く終われるよう、多数ご協力ください。

[10 月]

地域学校連携協議会 (7)

*** 地域学校連携協議会企画会で各専門部会報告 10/7 ***

環境整備部会

○校内清掃、ペンキ塗りでは、保護者、教員、子供、地域のたくさんの協力をいただき、大変きれいになった。

○次は、校地周辺の樹木の枝伐りを行いたい。

安全安心部会

○中学校の秋季大会前 9/1 ~ 9/11 に第三中と柏崎小周辺を毎日巡回し、青色回転灯パトロール車がフル活動した。

○交通安全母の会の立哨は夏休み明けから 9 月 30 日まで 13 箇所で行った。

教育活動部会

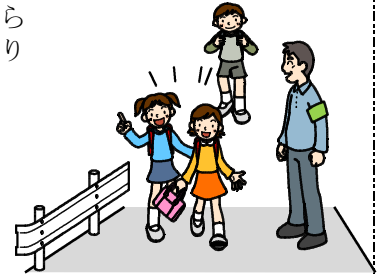
○読み聞かせや家庭科や総合の授業支援のボランティアが多くなりすばらしい。6 年生では地域の方をお呼びしての活動が 2 回あり、地域に誇りをもたせる活動としてとてもよい。

交流連携部会

○区民運動会の行進もプログラムもすばらしく、継続させたい。父親や母親など新しい顔ぶれがあった。もっと親に来てほしい。中学生の参加や応援合戦もよかった。

○合同演奏会の広告が多く集まっている。

環境整備部会
樹木の枝伐り 11/21
ご協力を！



*** 校舎へのメッセージに多数の応募 感謝の心がいっぱい ***

子供だけでなく、本校を卒業した保護者の方からも熱いメッセージをいただきました。総数 42!! 「心のふるさと」や「未来へつなぐ」「ありがとう」などのすてきな言葉が見られ、作品を読んだ企画会のメンバーは目頭がうるむ思いでした。今、学校で設置場所も含めて検討中です。

*** 八戸市地域密着型教育フォーラムで発表 11/20 ***

本校の八戸市地域密着型教育推進事業モデル指定校としての 2 年間の取組を、同じくモデル指定校の第一中学校とともに、「スウィングベリー南郷」で発表します。「広報はちのへ」でも紹介されています。

*** 日本の心コンサート 小・中学校、保護者、地域が共に 11/17 ***

このコンサートは、はちのへ共通商品券協同組合が発行 20 周年を記念して、地域の方々への感謝と未来を担う子供たちの心豊かな成長を願い、希望する学校で開催するものです。児童生徒だけでなく、保護者や地域の方とも一緒に日本の心に親しむよい機会にしたいと思っています。新しくできたばかりの第三中学校の体育館で行う予定です、後日、詳細をお知らせいたします。

[11 月]

地域密着型推進事業 (8)

*** 第2回理事会で 学校教育アンケート結果について意見交換(学校関係者評価) 11/9 ***

地域や保護者の理事の方から、いただいたご意見を一部紹介します。

- ・地域学習をしている子供たちは熱心で意欲的で、頼もしい。
- ・子供が、柏崎地域のことに興味をもったようでよく調べていた。
- ・安全パトロールの活動をもっと工夫したい。

などいろいろ出されました。

保護者や地域の方の学校応援意識が高まっていることを実感しています。

学校アンケート結果の詳細については、参観日に
お知らせします。

*****「日本の心コンサート」 子供・保護者・地域住民がともに鑑賞 11/17*****

インフルエンザの関係で、残念ながら中学生は参加できませんでしたが、本校4～6年生は、プロの音楽家による語りと童謡で、「日本の心」に浸った1時間でした。地域の方や保護者も多数お出でになりました。

*****八戸市地域密着型教育フォーラムで 本校の取組の成果・課題を発表 11/20*****

この2年間の、地域学習に取り組む子供の意識の変化、ボランティア活動や地域の方々と連携して行っている活動の定着化と活性化、教員の地域に関する意識の変化などについて発表しました。保護者の方にも説明する時間を少しでもとりたいと考えています。

*****校庭周辺の樹木の枝伐り 雨にもめげずに実行 きれいになりました 11/21*****

朝はあいにくの小雨でしたが、学校に来た保護者や教員は、木にはしごをかけてどんどん作業を進めました。そのうちに晴れてきて、子供や保護者も参加し、10時ごろにはすべて終了いたしました。ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

[12 月]

地域密着型推進事業 (9)

***** 校外子ども会・集団下校指導 地域・保護者の方々とともに 12/17 *****

今年度2回目の校外子ども会では、子供同士はもちろん、おいでになった地域の方や保護者の方とも次第に顔なじみになってきている様子がうかがえました。5年生が総合的な学習の時間で作成した地域安全マップをもとに、冬期間の危ない場所を確認したり、安全な遊び方を話し合ったりしました。またゲームを楽しむ町内や、行事を計画する町内もありました。

その後、体育館から集団下校。地域の方、保護者約50人ほどの方々と教員が、22方面に分かれて子供たちとともに歩いて帰りました。普段からしっかりと歩かせ、お迎えがなくても安全に歩いて帰宅できる子供を育てたいと思っています。



どんど焼祭 1/10 11:00 校庭

しめ縄や正月飾りを燃やし、1年間の無病息災を祈念する地域の行事です。甘酒も振る舞われます。寒くない服装でおいでください。

**柏崎公民館 冬休みこども講座で
楽しんではいかがですか**

12/25	10:00	親子料理教室
1/8	10:00	冬休み映写会
1/12~13	10:00	こどもパソコン教室
お申し込み 公民館 43-9139		

[1 月]

地域密着型推進事業 (10)

***** どんど焼祭 地域の方とともに無病息災を祈願 1/10 *****

今年も、校庭には地域の方々が持ってきたたくさんの正月飾りやしめ縄が積み上げられ、神主さんの祝詞のもとで燃やされました。集まったのは、地域の方や保護者、子供たち、教員約300名ほど。しめ縄などを燃やして無病息災を願うお正月恒例のこの行事は、日本の伝統文化の一つです。子供の頃から親しんでいきたいものです。

えんぶり鑑賞会にどうぞおいでください。2/19 本校体育館 *

塩町えんぶり組の皆さんが来校し、八戸の伝統文化であるえんぶりを披露します。先般の第30回合同演奏会にも出演していただきましたが、もっと多くの子供たちや保護者の方にも鑑賞していただきたいと思っていま



す。当日は、所属する子供たちの演技はもちろん、2年生の子供たちも生活科で学んだえんぶりを披露する予定です。詳細は後ほどご案内します。

***** 幼保小連携情報交換会 2/9 *****

学区内の6つの幼稚園・保育園の代表と学校代表が集まり、子供の成長が円滑に続いていくように、子供の様子、園や学校の状況について話し合います。

***** 地域学校連携協議会第3回理事会（柏崎小・第三中合同） 2/15 *****

今回の地域学校連携協議会理事会は今年度最後の理事会で、第三中と合同で行われます。学校や地域における児童・生徒の様子や各学校の取組について、地域住民・保護者・学校教員による理事の方々からご意見等を伺い、次年度の学校運営の参考にしていくことになります。次回（3/1）の参観日を地域学校連携協議会全体会とし、話された内容についてご報告いたします。

**新しい柏崎小学校の基本設計展示会へ
どうぞ！！**

2/8（月）～2/19（金）

10:00～16:00

（土日、祝日を除く）

地域連携室（2棟1階、理科室隣）

図面や模型などが展示されます。

詳細は 別紙をご覧ください

路上駐車を取り締まりが厳しくなっています。

頻繁にパトカーが巡回しています。路上駐車は絶対にしないでください。また、狭い道路に止める迷惑停車、正門からの右折車も見られますので、送迎時はお気を付けください。正門から出るときは左折しかできません。

子供はできるだけ歩かせて、心と体、安全意識を育てましょう。

[2 月]

地域密着型推進事業（11）

***** 地域学校連携協議会第3回理事会（小・中合同）から 2/15 *****

第三中学校では、家庭科の授業支援のボランティアが好評で、来年度は図書ボランティアを立ち上げたいとのことです。

地域の皆さんから出されたいくつかを紹介します。

- H 23 は中学校創立 50 周年と小学校の移転が重なる年で、小・中が距離的に近くなる。通学路の危険箇所などを考えたい。
- 校外子ども会や集団下校で子供と顔合わせをしているので、挨拶をする子が増えた。続けてほしい。
- 安全パトロールで声をかけると、「ありがとうございます。」と返してくれて、うれしい。
- 青少協の行事や公民館の文化祭などに参加する子供・大人が増えてうれしい。

幼保・小・中学校関係者・地域関係者の方々が一堂に会し、子供たちや地域の現状をもとに話し合うということは、地域の中で子供を育てる上で大変有意義なことであることを改めて感じています。

***** 塩町えんぶり組 伝統の舞を披露 2/19 *****

本校児童 22 名を含む塩町えんぶり組の皆さんが、えんぶりの由来や舞の説明を加えて約1時間にわたり演技してくださいました。八戸聾学校の児童・教員や ALT のエイドリアンさんをはじめ、地域の方や保護者の方も多数お出でになり楽しみました。釣り上げた鯛を受け取ったエイドリアンさんはっこり！

**受賞しました！
皆様のおかげです！**

八戸市優良 PTA 表彰

柏崎小学校父母と教師の会

八戸市 PTA 活動振興功労者表彰

沢田淳子さん(14年間も役員としてご活躍いただきました。)

八戸市学校教育実践功労表彰

「地域密着型教育の推進～WeLove 柏崎 地域とともに歩む学校づくり～」

第3章 第一中学校の記録

第1節 地域密着型教育実践の歩み

第一中学校 校長 伊藤 博章

研究テーマ 地域とともに子どもを育てる一中の教育

1 はじめに

本校は、平成20年度、21年度の2年間にわたり「地域密着型教育」モデル指定校として、教職員・保護者・地域住民が協働・共育の学校運営に取り組んできた。その結果、学校が落ち着き、生徒が変容してきている。以下に、取り組み概要を記す。

2 本校の地域密着型教育のねらい

- (1) 生徒指導の安定および学力の向上を学校経営の基底に据え、学校・家庭・地域社会の役割を明らかにし、生徒のよりよい育成を図る。
- (2) 「お手伝いではなく学校運営への参画」を目指し、よりよい組織のあり方や活動内容を考えることによって、地域の中の学校としてスムーズに運営できることを目指す。

3 平成20・21年度の実践の重点

多忙化軽減の視点に立ち

① 今あるものを見直す

→ 既存の学校行事や教育活動を改善

② 細く長く楽しく

→ できることをできる時間にできる範囲で

③ 本当に必要な支援にしぼる

→ 生徒へ還元される支援活動

を目指して、何かを新たに立ち上げるのではなく、無理なく自然にできる活動に取り組む。

＜保護者も参加した奥入瀬ウォーク＞



4 ねらい達成のための具体的な実践の概要

(1) 既存組織を生かした組織づくり

今ある組織を極力こわさず、教職員、生徒、地域諸団体、現役PTA、PTAOBの組織をいかにつなげるかを時間をかけて話し合った。その中で、

① 現役PTAからPTAOBへ、さらに地域諸団体へとつなげていくこと

② 学校や公民館等を核とした学校づくりや町づくりを考えていくこと

が確認され、取組がスタートした。

(2) 運営のための組織

① 第一中学校区「地域学校連携協議会」(16名)

吹上公民館館長を会長として、地域の代表と小中学校の校長からなる組織で、学校と地域の連携の核になるものである。

②企画・推進部会(24名)

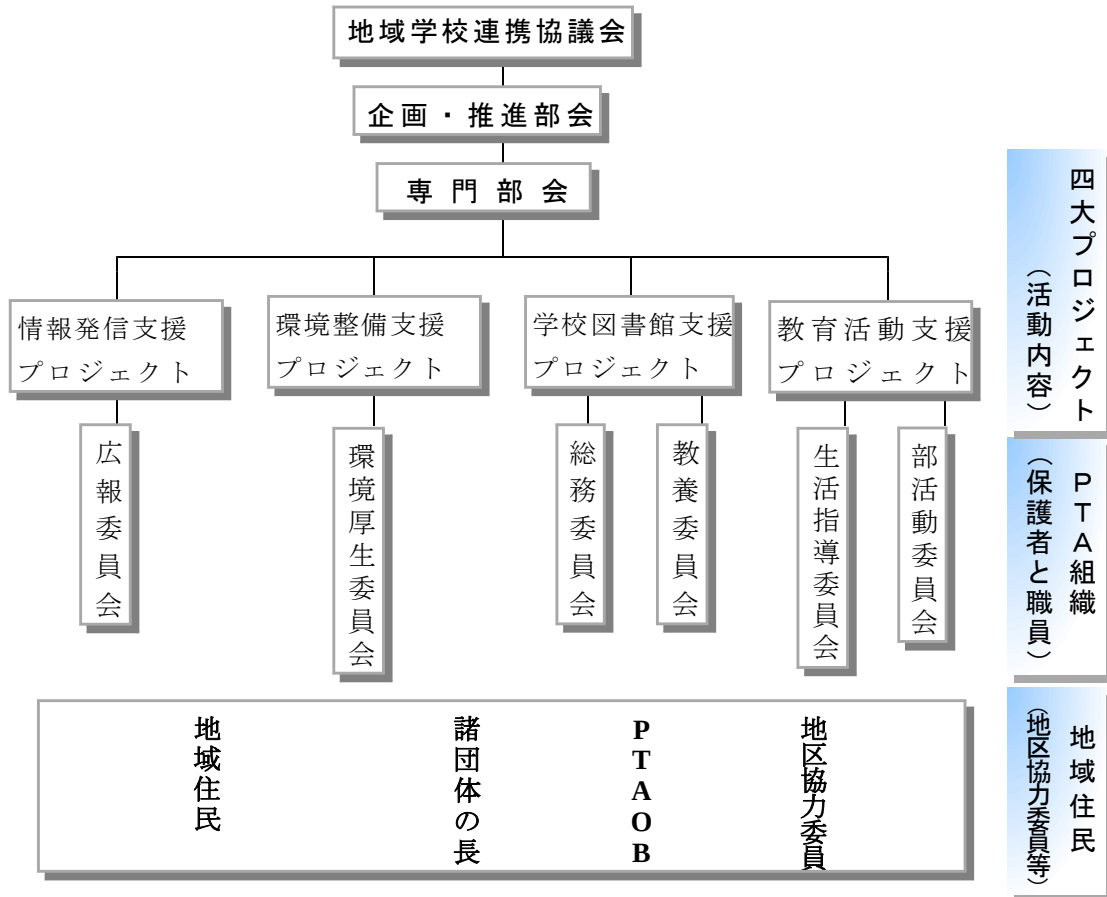
各プロジェクトの保護者および教職員の代表とPTA役員から構成される組織で、企画・推進を行う実働を担う。

③合同会議(71名)

実際に活動を行う全メンバーにより組織される。教職員および保護者の他、PTA O Bがメンバーに加わり、地域密着型教育推進の大きな力となる。

(3) 組織と学校評価

従来のPTA組織を生かした職員・保護者の協働の組織を以下のように編成した。



(4) 4大プロジェクトの主な活動

教育活動支援プロジェクト (授業支援・学校行事支援)	
期 日	活 動 内 容
21. 4月～	ハッピートライアングル (空き缶回収・計量) 毎月1回
21. 7. 18	奥入瀬ウォーク (2学年) 支援 (ボランティア33名)
21. 8. 1～	家庭部指導ボランティア (浴衣制作 計7回)
21. 8. 29	体育祭行事支援 (グラウンド整備、スターター、決勝係、売店)
21. 10. 7	授業支援ボランティア (国語科書写の授業の補助)
21. 10. 18	文化祭行事支援 (バザーへの出店など)
22. 2. 1～4	特別支援ボランティア (家庭科調理実習の補助)
22. 2. 17～18	特別支援ボランティア (家庭科授業「パパマ体験」の補助)

学校図書館支援プロジェクト（蔵書整備・貸し出し・図書紹介など）	
期 日	活 動 内 容
21. 5月～	地域ボランティア(蔵書整理・補修等活動開始)
21. 6. 2.	講習会（パソコン登録、修正）
21. 7. 22～	夏休み中の図書室開放
21. 9. 9	第1回ボランティア養成講座（本の修理等）
21. 9. 29	図書委員会（生徒）と図書プロジェクト交流会
21. 11. 9～	放課後学習室として図書館開放（見守り）
21. 12. 18	第2回ボランティア養成講座(ブックトーク等)
21. 12. 24～	冬休み図書室開放（各作業と見守り）第3回ボランティア養成講
22. 2. 9	座(パソコンを使って)

情報発信支援プロジェクト（地域への通信の発行・ホームページ更新など）	
21. 6. 15	第7号「ブルースカイ一中」印刷、発行
21. 7. 17	第8号「ブルースカイ一中」印刷、発行
21. 9. 17	第9号「ブルースカイ一中」印刷、発行
21. 10. 15	第10号「ブルースカイ一中」印刷、発行
21. 11. 17	第11号「ブルースカイ一中」印刷、発行第12号「ブルースカ
21. 12. 17	イ一中」印刷、発行第13号「ブルースカイ一中」印刷、発行
22. 2. 17	

環境整備支援プロジェクト（環境整備など）	
21. 8. 9	第1回環境整備ボランティア（側溝泥あげ、タイル貼り）
21. 10. 25	第2回環境整備ボランティア（ワックスがけ、フェンス補修）
21. 2月予定	第3回環境整備ボランティア（実施予定）

5. 活動の成果

【学校評価の保護者・職員アンケートから】 ※ 地域密着型教育にかかわる項目のみ抜粋し掲載

〈 A そう思う B どちらかというと思う C どちらかというと思わない D そう思わない 〉 単位 %

評 価 項 目	対 象	A	B	C	D
① 学校は、伝統や地域の特色を生かした教育活動を推進しているか。	保護者	24.0	56.2	11.0	0.8
	職 員	31.4	62.9	5.7	0.0
② 学校は、保護者との連携を大切にした教育活動を行っているか。	保護者	24.2	60.1	10.1	1.7
	職 員	34.3	65.7	0.0	0.0
③ 学校は、地域の活動に協力的で地域の意見や要望を取り入れているか。	保護者	21.5	52.5	7.8	0.8
	職 員	37.1	51.4	11.4	0.0
④ P T A活動は、保護者と教職員が協力して行っているか。	保護者	29.8	53.1	7.6	0.8
	職 員	20.0	77.1	2.9	0.0
⑤ 学校は、地域密着型教育等についてわかりやすく伝えているか。	保護者	33.3	50.0	5.8	0.4
	職 員	54.3	42.9	0.0	2.9

※上記アンケートは、保護者にはA～Eの5段階評価で行った。Eは学校の状況がわからず評価不能の方で一覧から割愛。

- (1) 保護者や地域住民の教育活動への参画意識が高まり、今まで以上に地域の目が学校に注がれるようになった。保護者等が学校のありのままの姿に触れる機会が多くなった。教員と保護者等とのコミュニケーションの場が確実に増えた。
- (2) 校舎内外の教育環境の整備が行き届くようになった。築40年の古い校舎ゆえに、目に見える活動として子どもの心をはぐくむ教育効果が大きい。
- (3) 知的環境としての学校図書が充実しつつある。人のぬくもりが感じられる図書室環境の整備が進み、子どもの読書意欲や学習意欲を高めている。
- (4) P T Aの活動が活性化してきた。生徒の目に見える形で還元される活動が増え、生徒と保護者との関係が今まで以上に身近なものになってきた。

6 今後の課題

(1) 職員の参画意識をいかに高めるか

授業や学年行事等に地域人材を生かす取組を強化し、「地域なくして学校なし」の意識をさらに高めることが必要である。職員や保護者が核となって努力し、そこに地域住民を巻き込んで地域ぐるみの教育活動を展開していくのが自然の成り行きである。そのためには、職員が「地域密着型教育」の必要性を真に理解し、職員の参画意識を高めていくことが不可欠と感じた。

(2) 保護者や職員リーダーの負担をいかに軽減するか

4大プロジェクトの活動が一過性の活動に終わらないように組織ぐるみで継続的な取組が必要である。現状は、スタッフが固定化しやや加重負担になっている。

P T Aでは、従来からの各委員会の仕事とプロジェクトの仕事が重なり多忙感が増している。職員では、4大プロジェクトを推進するための計画や当日の活動や会議への出席など、学級指導や部活動指導等との兼ね合いなど、精神的・身体的な負担が大きく、今後、検討の余地がある。そのためにも、必然的に増える傾向にある夜の会議等を見直していく必要があると感じた。

(3) 協働の学校運営や教育活動をいかに設定するか

地域住民の声を具現化していくには、学校施設の開放のみならず、協働の学校運営や教育活動を設定したい。共に汗を流す活動を通して、地域の学校を地域みんなの手でより良いものにしていこうという意識を醸成していく必要がある。そのためには、学校側からの注文や要求ばかりではなく、生徒や保護者の意見や要望を取り入れた活動を設定し、誰もが気軽に参加でき、充実感が味わえる活動を設定することが有効であると感じた。

7 おわりに

立ち上げから現在に至るまで、P T A会長をはじめとするP T A役員が企画推進リーダーとなり、四大プロジェクト(教育活動支援、学校図書館支援、環境整備支援、情報発信支援)を積極的に推進・実践し、数々の成果を上げた。

小職が目指す「お手伝いではなく学校運営への参画」を理解し、自主的に会議設定や活動を献身的に行い、「地域密着型教育」の進むべき道を示してくれた。校舎内外の環境整備や図書支援が進むなど、子どもたちの心を育む教育活動が随所に展開されている。

今後は、この2年間で培った取組が、無理なく、長く続けていけるように、それぞれの立場で修正を加えつつ、完成させていきたい。



第2節 「地域密着型教育」実践に込めた思い

～第一中学校ホームページ「校長のつぶやき」より～

第1回 組織は人



○地域密着型教育を推進する上で、もっとも大事なものは「人」である。どんな事業を行うかはさほど問題ではない。

推進のカギを握るのは人の数ではなく質であると実感した。とにかく学校の奉仕活動は義務的なものになりがちである。「やらされている」という意識では活動の継続も定着も期待できない。学校のことや生徒のことを思い、何かお手伝いができればと、謙虚だが凜とした思いに支えられた学校応援隊（学校支援隊）こそ、今、求める人材である。

それは必ずしも保護者とは限らない。とうにわが子や孫が卒業し、中学校から縁遠くなっていたかつての OB や OG、さらには地域住民などが集い、できる事をできる範囲で学校運営に参画していく、それが本校の描く「地域密着型教育」の理想の姿である。

○組織の要（かなめ）はやはり人である。人望あるリーダーがいるところには志を同じくする人々が集まる。PTA は保護者にとってはもっともなじみのある組織である。この組織を束ね、推進役を果たすのが PTA 会長である。この2年間、二人の会長と二人三脚で「地域密着型教育」を推進してきた。会長の援助なしにはモデル校の実践は一步も進めなかったと感じている。校長にとっては誰よりも一番頼りになる学校応援隊長であった。本校の場合、「地域密着型教育」にかかわる新たな組織を設けず、現 PTA 組織をそのまま活用することにした。PTA 本部役員はじめ要職にあるリーダーには全面的な支援をいただき、本当に有り難かった。組織は人しだいである。

○なぜ、PTA 組織なのか、そのわけは二つある。一つは、初年度から即活動ができる組織にしたいと考えたからである。モデル校の期間は限られている。新たに組織を編成すれば、人選からその運営方法に至るまで、軌道にのせるにはかなりの時間と労力が必要となる。その点、現 PTA 組織の場合、人選も運営方法等もある程度できあがっている。まずは具体的に動き出し、そこから課題を洗い出し、次年度につなげていけばいいと考えた。もう一つは、PTA 組織を活性化したいと考えたからである。モデル校指定を機会に、従来の PTA 活動から、「協働の学校運営」という新たな視点に立ち、学校生活や生徒に直接かかわる諸活動を増やし、学校の隅々に至るまで保護者や地域住民の目や心が行き届くようにしたいと考えた。

○課題もある。PTA の6つの委員会組織と地域密着型教育で重点施策に掲げた4つのプロジェクト組織との整合性の問題である。PTA の組織が当初から地域密着を想定して設けられているわけでないことを思えば当然のことである。具体例等は、今後の「つぶやき」で詳述するが、まもなく始まる次年度の組織編成にあたっては、これまでの組織を踏襲するか改編するか、PTA 会長はじめスタッフと十分に話し合い、新たな方向を見いだしていきたい。ただ、これまでの実践を通して、運営のノウハウや仕事内容がかなり見えてきた。組織を新たに編成しても戸惑うことは少ないと考える。いずれにしても、「地域密着型教育」の成否のカギを握るのは「組織」であり、その組織を支える「人」であることは間違いない。

◇次回は、「経営方針を練る」について述べてみたい。

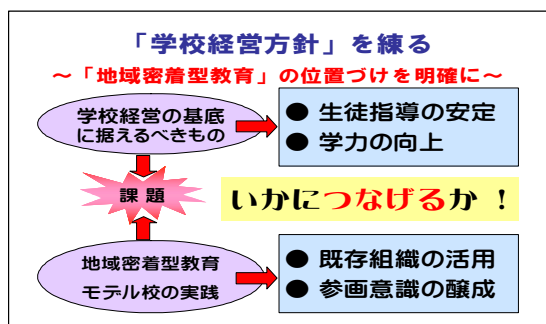
第一中学校ホームページ「校長のつぶやき」より

第2回 経営方針を練る



○地域密着型教育の趣旨は理解できた。一言でいえば、「地域なくして学校なし」という理念の実践であるにとらえている。これまでも、学校行事や教育活動を通して保護者の意見や要望には可能な限り応えようと努めてきた。また、地域行事や会合にも出席し、地域住民の学校に対する生の声に耳を傾けるように努めてきた。ただ、学校だけで対応できることには限界がある。あらゆるものを学校が抱え込み過ぎて機能不全に陥るおそれがあると感じていた。学校、家庭、地域がそれぞれに別個に役割を果たしても、子どもや学校を変えるだけの力にはなりにくい。この三者が「協働」の場を通して地域の学校づくりに本腰を入れ参画してこそ地域密着型教育の趣旨が生きてくると考えた。

○公立の中学校である以上、地域に根差した教育を校長や職員が心がけ、運営していくことは当然である。子どもたちを育んできた地域の風土や家庭環境、さらには子どもの生活面や学習面の実態など、学校の抱える状況は一様ではない。地域密着型教育のスタイルは、そうした地域の状況に応じて様々な形があっていいと考える。本校では、「生徒指導の安定と学力の向上」を学校教育の基底に据え取り組んできた。そこに、新たな「地域密着型教育」の理念や活動をいかに関連づけていくか腐心した。図式化すれば以下になる。



○当初から「地域密着型教育」と銘打って何かしら特別な行事等を打ちあげる気持ちは毛頭なかった。モデル校の指定が解除になっても、引き続き取り組んでいける活動であること、協働の活動によって学校や生徒に何かしらの成果や変容が得られることなど、学校経営方針の根っこに、「地域密着型教育」を据えることとした。

○経営方針の骨子が固まるまでに約2ヶ月を要した。幸い4月5月は各部の春季大会や修学旅行などが集中し職員が多忙を極める時期でもあった。校長として素案を練る時間が確保できた。6月の職員会議では、本校教育における「地域密着型教育」の位置づけやこれからの工程等について職員に説明し理解を求めた。具体的取組については職員を中心に話し合い、練り上げていくこととした。

○1年前、職員のあまりの多忙さを憂い、職員に生徒と向き合う時間を担保してあげる施策として、水曜日を部活動休止日とした経緯がある。したがって、この地域密着型教育の推進が職員の過重負担を招くことだけは極力避けたいと願った。あせらずに、試行錯誤を繰り返しながら学校独自の形を模索していく意外にないと感じた。具体的な重点施策を考えるうえで、八戸市教育委員会の「地域密着型教育」の趣旨等にある「願い」「情報」「責任」「学び」の4つ共有が貴重な示唆を与えてくれた。こうして「教育活動支援」「学校図書館支援」「環境整備支援」「情報発信支援」の4つのプロジェクトが浮かび上がってきた。学校経営方針がようやく見えてきた。

◇次回は、「準備委員会を立ち上げる」について述べてみたい。

第一中学校ホームページ「校長のつぶやき」より

第3回 準備委員会を立ち上げる



○第1回では「組織は人」だと、実践を通して一番強く心に残っていること述べた。第2回では学校経営のどこに「地域密着型教育」を位置づけるべきかについて述べた。6月には、いよいよ校内に「準備委員会」を立ち上げる目途がついた。およそ下準備はできていた。平成20年4月にいきなりモデル指定を受けたのではない。前年の11月28日に、次年度から2年間のモデル指定を内諾していた。

12月15日に、指定予定の校長と教頭に担当指導主事より地域密着型教育の概要説明があった。12月19日の地元紙に「地域密着化教育モデル校/柏崎小と第一中に/来年4月から2年間実施」の見出しで初めて公表された

○翌20年1月28日、第1回拡大委員会が開かれた。「拡大委員会」というのは、モデル指定2校と市教委が定期的に情報交流をし、両校の進捗状況や課題等を共有しながら実践を深めようという趣旨のものであった。21年12月までに計13回にわたり、意見交流を行い今日に至っている。振り返ってみると、地域密着型教育の主要骨子はこの拡大委員会の中で練られたものが多い。この拡大委員会での協議内容などは、市教委が20年度末に発行した「経過報告集」に詳しい。小と中の校種の違いなのか、PTA組織や地域諸団体とのかわりなど、隣接学区でありながらも取り巻く状況はかなり違っていた。それがかえって、自校の組織等を考えるうえで参考になることが多かった。こうした下準備もあり、準備委員会に諮る案件がかなり具体的に見えてきていた。

○20年6月11日、第1回準備委員会が本校図書室で開催された。本校の教育事情に精通している保護者代表5名、地域代表3名、生徒代表2名、職員代表4名で構成した。最初に、市教委の担当指導主事から地域密着型教育の概要説明がなされた。コミュニティースクールや学校評議員制度との違いなどが述べられ、地域ぐるみの教育活動を展開してほしいと結ばれた。続いて、校長より目指す学校像や重点項目等の学校経営方針を説明した。とくに組織づくりについては、新たな組織をつくるのではなく、既存のPTA組織や職員の校務分掌組織等を活かした組織づくりを目指したい。職員のエネルギーには限界がある。PTAも一部の方のみという雰囲気がある。地域と学校が連携しなければ教育は立ちゆかなくなると結んだ。地域密着型教育の活動をPTA活動の活性化につなげたいという思いがあった。

○準備委員会は6月に2回、7月に2回の計4回開催した。原案は校長が準備し提示した。その案を話し合いのたたき台にして、メンバーからさまざまな意見を出してもらった。準備委員会には、和気藹々とした中にも、新しいものを立ち上げる熱気が満ちていた。PTA会長が進行役を務め、組織づくりや重点施策、設置規則や会則、さらには「地域学校連携協議会」の人選など多岐にわたって協議した。7月には、「地域密着型教育」の事業主体である「地域学校連携協議会」の立ち上げが8月26日と決まった。重点施策に「4大プロジェクト」を掲げ、全体構想図や組織案ができあがりつつあった。

◇次回は、「4大プロジェクト誕生」について述べてみたい。

第一中学校ホームページ「校長のつぶやき」より

第4回 4大プロジェクト誕生



○ 6月11日の第1回準備委員会では組織の概要が話し合われた。会議録からその一部を紹介する。

- 校 長 ・今年度は PTA 組織も職員の校内組織も変えないでいく。学校経営上の重点としては、教育ボランティアの参画による授業改善。生徒の心を耕す学校図書館の充実。体育祭や文化祭などの学校行事との連携などを考えている。
- 生徒会長 ・生徒の立場からすると部活動支援プロジェクトと清掃活動ボランティアは是非やってほしい。
- 委 員 ・部活動のボランティアは現在も活動している。ボランティアで地区の清掃を行うのは歴史もあるし、新しい形にして広げていけばいい。図書館の地域開放もいいが、管理が大変ではないか。
- 指導主事 ・各専門部会とは別に、全体会の下、専門部会の上に「企画推進部会」があればよいのではないか。企画推進部会のメンバーは各専門部会の長と事務局と学校数名が構成することによって、どの専門部会がどんな活動を予定しているか、実施しているかが共有でき、横のつながりができてくるのではないか。
- 委 員 ・町内会や子供会の情報を収集したり、それを発信することも必要ではないか。地域との連携を図るうえで地域が今何をしているか知ることは重要である。そういう専門部会もあるといい。
- 委 員 ・地域のことを全部知るといえるのは手を広げすぎではないか。各町内会でも広報を作成して知らせているし、町内のさまざまな計画を盛り込んだ年間計画も作成している。それをいつでも参照できるようにしておけばいい。
- 校 長 ・地域への広報活動をどうしていくかが問題だ。保護者は学校から配布できるが、家庭や近所に子どもがいない方は学校のことを知る機会がないのではないか。
- 生徒会長 ・今年から水曜日に部活動がなくなり早く帰れる。生徒が手分けして自分たちで町内にパンフレットを配ったり、説明したりしてはどうか。
- 委 員 ・生徒からそういう意見がでてくるとはとてもありがたい。でも、あまり過重負担になると長く続かない。
- 校 長 ・できる分からスタートしていったらどうか。今日は専門部会をある程度絞り込むことを目標にしよう。

○ 2時間ほどかけて、冒頭に提示した7つの専門部会が4つに絞り込まれた。

- ①学び合う授業の構築(授業等への支援、保護者や地域住民と協同の授業)
- ②学校図書館の充実(蔵書の整備、貸し出し業務、読書啓蒙等)
- ③行事の連携(保護者、住民、職員が連携・融合した行事の充実)
- ④これらを充実、啓蒙する観点からの広報活動の充実(広報発行とHPの定期更新)

○それぞれの名称は、生徒会長の「プロジェクトがいい」という一言で①教育活動支援プロジェクト②学校図書館支援プロジェクト③環境整備支援プロジェクト④情報発信支援プロジェクトに決まった。学校経営方針とも合致する活動の柱となる「4大プロジェクト」はこうして誕生した。

◇次回は、「組織の中核をなすPTA組織」について述べてみたい。

第一中学校ホームページ「校長のつぶやき」より

第5回 活動の中核をなすPTA組織

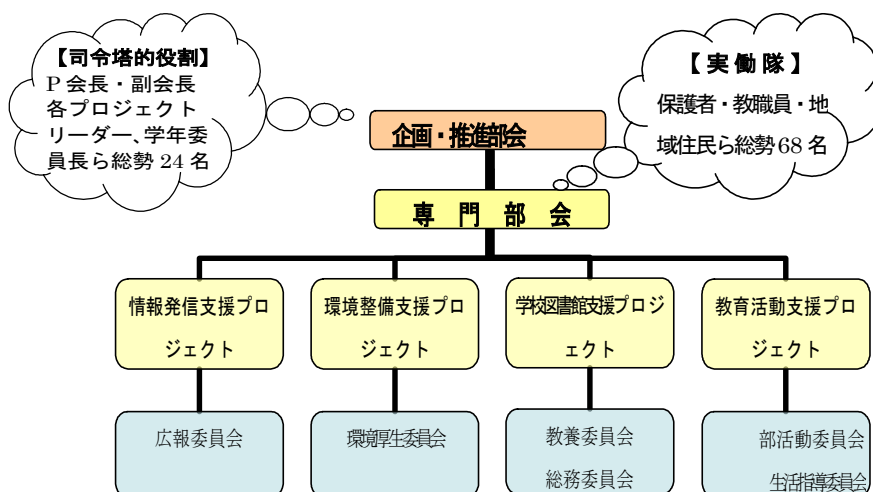


○活動の中核をなすのは現役の保護者である。わが子が在籍している保護者にとって、学校運営の良し悪しは最大の関心事である。PTAは保護者と教職員によって構成される任意団体であるが、学校直属の学校応援隊でもある。学校予算削減の昨今、PTAボランティアによる環境整備や教育活動支援などは、学校にとってはなくてはならない存在となっている。また、PTAは本市の小、中学校ごとに組織され、PTA役員等の人材ネットワークもできている。自校のみならず、他校との情報共有や行動連携も図れる貴重な組織である。

○既存のPTA組織を活用するメリットはたんに身近な学校応援隊であるという理由ばかりではない。子どもが卒業すれば保護者も地域住民の一人となる。地域密着型教育は学校・家庭・地域が連携・協力し、よりよい教育環境を提供するところにある。保護者が地域密着型教育の一翼を担う現役世代として汗を流し、やがてはPTAのOB・OGとして、学校と地域をつなぐ推進役を果たせるのではないかと、そんな願いのもとに既存のPTA組織をベースに組織した。

○本校PTAは本部役員、常任委員会、学年委員会で組織されている。まず、4月に選出された学年委員は総務、広報、環境厚生、教養、生活指導、部活動のいずれかの委員会に所属する。今年度、6委員会に所属している保護者はおよそ130名。全保護者の4分の1に当たる。地域密着型教育の4大プロジェクトには、各委員会の委員長はじめ数名の代表が所属し組織している。もちろん、教職員や地域住民も加わる。こうして「企画・推進部会」と「専門部会（4大プロジェクト）」が立ち上がった。留意すべき点はプロジェクトスタッフのみが活動するのではなく、彼らが活動の推進役となって、保護者や地域を巻き込んで活動を展開していくところにある。

○将来的には地域住民が中心となって学校運営に参画していくことが理想ではあるが、当面は学校の状況に精通している現役の保護者が中心となって、組織の在り方や具体的活動など、あれこれ試行錯誤を繰り返しながら、実効性のあつた活動を定着させたいと考えている。



◇次回は、「地域学校連携協議会」について述べてみたい。

第一中学校ホームページ「校長のつぶやき」より

第6回 地学連協の組織と役割



○地域学校連携協議会とは何か。八戸市教育委員会のパンフレットに掲載された「地域密着型教育 Q&A」から一部抜粋してみる。

Q.「地域密着型教育」って何ですか？

A.地域密着型教育は、地域の小・中学校の運営にあなたの声を生かすための制度です。学校内に「地域学校連携協議会」を設置することにより、地域コミュニティの活動やPTA活動との連携をこれまで以上に密にすることができ、皆さんの意見を学校運営に反映させることが可能となります。

Q.普通の学校とどこが違うのですか？

A.地域学校連携協議会を通じて、地域住民及び保護者の皆さんの学校運営への参画が、仕組みとして保障されます。この仕組みを利用して、地域の意見を取り入れた活動を展開することができます。

○地域住民や保護者の学校運営への参画が仕組みとして保障される組織が「地域学校連携協議会」（略称・地学連協）である。本校では学校評議員に変わる組織として位置づけている。具体的な役割等について「第一中学校地域学校連携協議会会則」から一部抜粋してみる。

第8条 協議会は、学校の運営に関する事項（職員の採用・任用・分限並びに懲戒に関する事項及び予算に関する事項を除く）について校長に対して意見を述べることができる。

第9条 協議会は、学校の運営について、地域住民等の理解・協力・参画等が促進されるように努めるものとする。

第10条 協議会は、地域住民等に対して、その活動状況に関する情報を積極的に発信するとともに、地域住民等の意見・要望等を把握し、その運営に反映するように努めるものとする。

2 協議会は、学校の運営状況について点検及び評価を行うものとする。

○コミュニティスクール（学校運営協議会制度）との違いは権限の有無である。コミュニティスクールでは、教育課程などの学校経営方針の承認や教職員配置について任命権者に対して直接意見を述べるのが制度的に保障されている。八戸市の「地域密着型教育」に承認等の権限はない。ただし、保護者や地域住民の願いを学校教育に反映させ、学校・家庭・地域が力を合わせ地域ぐるみの教育活動を展開していくという趣旨はコミュニティスクールと同様である。承認や人事にかかわる権限がない分、かえって学校や地域の実情に応じた自由裁量の余地があり、推進上のメリットも大きかった。

○地域学校連携協議会は16名で組織されている。人選にあたっては両地区のバランス等を考慮した。会則第3条に「協議会の委員は次の各号に掲げる者のうちから選ぶ」とある。すなわち、在籍する生徒の保護者、地域の住民、教職員、地域団体関係者・学校教育関係者、学識経験者、関係行政機関の職員、校長が適当と認める者、この7項目に該当する適切な人材を校長が推薦することになる。今年度は、連合町内会長、公民館長、児童館長、民生児童委員協議会長、校長、PTA会長・副会長ら学校や地域の実情に精通している方をお願いした。年3回の開催で、全員無報酬のボランティアである。

◇次回は、「職員組織と参画意識」について述べてみたい。

第一中学校ホームページ「校長のつぶやき」より

第7回 職員組織と参画意識



- 組織は人だと述べた。職員に丸投げをするのではなく、まず校長として、どういう方向に進みたいのか、経営方針を練ることが大事と考えた。そして、いよいよ準備委員会を立ち上げ、活動を4大プロジェクトに絞り込んだ。あれもこれもでは負担増を招き、活動を一過性のものにしてしまうおそれがある。だから、一貫して多忙化軽減の視点を意識して想を練った。具体的には、次々と新しいものを打ち出すのではなく、今ある活動を見直すという視点、細く長く楽しくという継続の視点、本当に必要な支援に絞るという負担軽減の視点で経営方針を立てた。
- 思春期・反抗期といわれる心揺れ惑う多感な時期にいる中学生の指導は難しい。昨今はいじめや虐待、さらには新型インフルエンザへの対応と子どもの命にかかわる事案が急増している。また、社会全体の規範意識も確実に薄れつつある。そういう社会の中で育つ子どもたちに家庭でのしつけや教育を求めるだけでは解決にはならない。もはや、学校だけに、家庭だけに、子育ての責任を押しつける時代ではない。学校も家庭も、そして地域社会も子育ての悩みを共有しながら力を合わせ、子どもたちの健やかな成長を見守り育てていくことが時代の必然のような気がする。地域密着型教育が目指すところは、いわば時代が求める新しい学校の在り方そのものだと実感している。
- その地域密着型教育を支えるのは、やはり学校であり職員である。学校が家庭や地域と連携し、管理職のみならず一般職員も保護者や地域住民と気さくに交流できるような環境が整ったとき、はじめて地域密着型教育が地域に根ざしたものとなっていく。そのためにも、保護者や地域住民への啓蒙を図る以上に、職員の意識を高めることが重要であると感じた。その際、特に留意すべきことは、「やらされているという意識」ではなく「自分たちの学校を自分たちの手でより良いものにしていこうという意識」を醸成することである。あせらずにじっくりと、具体的な活動を積み重ねながら、一人ひとりの意識が高まっていくのが望ましい。
- 職員組織については、PTAの各委員会に所属する職員から4大プロジェクト担当として各3名を配置した。校務分掌や部活動等、個々の職員の業務内容を考慮しながら担当を決定した。生徒と職員との向き合う時間を確保したいという願いの下に実施しているのが、「学校支援地域本部事業」や「地域密着型教育」である。事業推進のために、生徒と向き合う時間が大幅に減るのは本末転倒である。ただ、大幅にと限定したのは、それらが軌道に乗るまでの間の負担増は避けられないのが現実だからである。それをたんに「過重負担」と受け止めるか、負担増に見合う「教育的成果」ととらえるかは、この事業を積極的に推進していけるかどうかのカギとなる。

◇次回は、「放課後の図書室」について述べてみたい。

第一中学校ホームページ「校長のつぶやき」より

第8回 放課後の図書室



- 本校は築 40 年を超える古い校舎だが、図書室はなかなかいい場所にある。生徒玄関を入れて一番近くにある特別教室である。ただ、塗装が剥離したグレーの壁は子どもたちが読書に親しめる環境ではなかった。読書をしてみたいという雰囲気のある明るい図書室がほしかった。幸い、平成 18 年度に創立 60 周年記念事業の一環として、天井を含めた壁や書棚を全塗装してもらい、図書室が明るくなった。1 階が職員室、2 階が図書室、3 階が音楽室という配置である。図書室は学校の中の一等地にあるべきものと考えている。
- 学校図書館といえば、すぐに蔵書冊数が話題になるが、大事なことは量より質である。読書は大人の押しつけであってはならない。子どもたちが手にとって、読んでみたくするような良書を取り揃え、読みたくするような読書環境や教室環境を整備してあげることこそ大人の務めである。地域密着型教育の 4 大プロジェクトの一つに、真っ先に、「学校図書館支援プロジェクト」を掲げた理由でもある。まずは、施設や図書整備などのハード面の整備、次に、読書習慣の定着や家庭読書の推進などのソフト面の充実を期していきたい。
- 放課後の貸し出し時間以外を除けば図書室が眠っていた。もったいないと思った。職員室の真上にあり、職員が一番目の行き届く場所にある。2 学期後半、すべての学校行事が終わると学校は徐々に受験モードに切り替わる。教室のあちらこちらに居残る生徒がいる。この季節は各教室に設置されたストーブの火気管理も大変だ。また、必ずしも家庭で勉強できる環境が整っている生徒ばかりとは限らない。暖房の効いた落ち着いた学習環境や読書環境を生徒たちに提供したい。そんな願いの下に、放課後の図書室の開放を行った。職員の過重負担にならないよう、職員の役目は二つとした。一つは生徒の下校を見届けること。もう一つは図書室のストーブの消火を確認すること。秋の 4 次考査に向けたテスト週間は満員御礼であった。
- 「学校図書館支援プロジェクト」の積極的な活動によって、わずか 1 年のうちに図書室の環境が目に見えて変わった。具体的な活動例をあげると、1.新着図書の登録やコーティング 2.図書の紹介(部活動の歴代の優勝カップ等を保管していた書棚を新刊図書紹介の展示棚として活用)3.図書室内の特設コーナーの展示(企画物や市立図書館から団体借り受けした図書の紹介)4.図書室壁面の季節にふさわしい飾り付け 5.学校図書支援員による読み聞かせやブックトーク、など定期的に行っている。ボランティアの心遣いが図書室の随所感じられる。図書室の利用者が増え、図書の貸し出し冊数も整備前にくらべ 3 倍程度に増加した。冬休み中は、図書室の整備も兼ねた「見守り隊」ボランティアを募集し実現した。いつでも人のいる温もりのある学校図書館を目指して、これからも活動を継続していきたい。

◇次回は、「情報発信の重要性」について述べてみたい。

第一中学校ホームページ「校長のつぶやき」より

第9回 情報発信の重要性

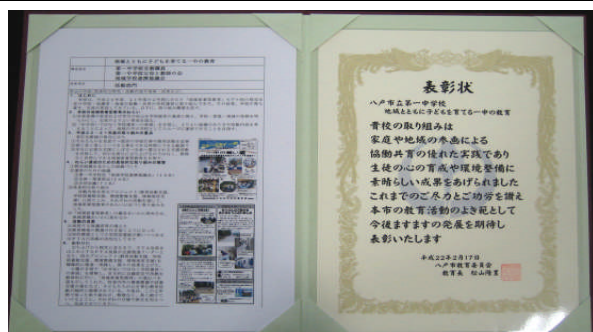


- 地域密着型教育では4つの共有が提言されている。「願い・情報・責任・学び」の共有である。2年間の実践を通して、情報の共有の大切さについて痛感している。地域密着型教育という言葉だけが先行し、その趣旨の周知が遅々として進まなかった。小学校でのPTA活動はいずこでも熱心で参加率も高い。しかし、中学校では役員等に任せっきりというのが現状ではないか。では、中学生の我が子に、親は無関心なのかということでもない。本校でも、体育祭や学校行事にはかなりの保護者が来校する。一昔前よりは確実に来校する保護者が増えている。要は、学校が本当に保護者や地域の方々の力を必要としているのか、学校としての情報発信の不足が保護者の足を遠のかせている一因ではないかと感じている。
- 平成21年12月の学校教育に対する保護者アンケートに、「地域密着型教育の各プロジェクトの事業などに協力したいと思いますか」の項目がある。A 14.3%(そう思う) B 48.9%(どちらかといえばそう思う) C 14.7%(どちらかといえばそう思わない) D 7.8%(そう思わない) E 14.3%(よくわからないので評価できない)という結果がでている。機会さえあれば、協力したいという保護者が63.2%(326人)もいるという事実を大事に受け止め、彼らが協力しやすい組織づくりや多様な活動を考えていく必要があると受け止めている。
- 保護者等の協力を得るには、まず学校からの情報発信がなにより重要である。いずれは双方向からの情報交流ができればと考えるが、当面は、学校からの情報提供を第一義に、今後、充実させていきたい。活動内容の紹介やボランティア募集の案内はもとより、今、地域密着型教育がなぜ必要なのか、どういう学校づくりを目指そうとしているのかなど、経営者としての理念やビジョンも繰り返し発信していく必要がある。理念やビジョンなき経営は、せっかくの活動を一過性のものに終わらせ、活動の継続と定着を難しいものにしてしまうおそれがある。字面だけの趣旨説明では真に保護者の賛同を得ることは難しい。具体的な活動を通して、生徒や学校の良き変容を伝え、理解や協力を仰いでいきたい。
- 本校では、学校経営の基底に「生徒指導の安定」を据え、取り組んでいる。おかげさまで、学校全体が荒れるような事案には至っていないが、小さな事案は皆無ではない。大事に至る前に解決に至っているというのが現実である。一貫して心がけていることは、常に、全職員が情報を共有することである。今、校内で起きつつある事案についても、職員朝会等で校長の口から直接、職員に伝えている。たとえば他学年のことであっても、常に「明日は我が身」という当事者意識をもって対応してほしい旨、説いている。自分の学級や学年には関係ないといった対岸の火事的な意識では、早晚、学校は生徒指導面での荒れを招くことになりかねない。情報の共有を図るということの大切さは、学校運営でも地域密着型教育の推進でも、共通する重要な視点である。

◇次回は、「2年間の成果と課題(その1)」について述べてみたい。

第一中学校ホームページ「校長のつぶやき」より

第10回 2年間の成果と課題 (その1成果)



- 2月17日、教育長室での表彰式に臨んだ。今年度、八戸市教育委員会が創設した「学校教育実践功労表彰」を、モデル校指定を受けた柏崎小学校と共に、受賞した。両校の実践事例がこれから本格的に始まる地域密着型教育の推進に、多少なりとも参考になれば幸いである。小中の校種の別はあるが目指すところは同じである。地域ぐるみの教育活動を展開し、地域に信頼され、地域に貢献できる学校づくりである。この事業は学校づくりで完結するのではなく、学校づくりから明るく活力あるまち（地域）づくりに貢献するということに、これまでになく大きな特色があるように感じている。さて、2年間の成果を3点にしばり述べてみたい。
- 第一に、保護者や地域住民の教育活動への参画意識が高まり、今まで以上に地域の目が学校に注がれるようになったことである。生徒指導の安定には学校だけの対応には限界がある。思春期の真っ只中にいる子どもたちは常に不安や悩みを抱え揺れ惑っている。彼らを排除するという姿勢では根本的な解決にはならない。学校と家庭、さらには地域ぐるみで地域の子どもたちを見守っていくという姿勢が生徒指導の安定には不可欠である。そういう意味でも、来校する保護者等が確実に増えたことは本校の生徒指導面の安定に大きく貢献している。保護者や地域の方々に見守られているという思いが子どもたちの心の安定につながった。
- 第二に、校舎内外の物的、人的な環境が着実に整備されるようになったことである。本校は築40年の古い校舎であるがゆえに、こまやかな物的な環境整備は欠かせない。これまでは職員と生徒が中心であったものに、保護者や地域の方々が加わり、地域の学校を地域みんなの手でより良くしていこうという機運ははぐくまれつつある。環境整備支援プロジェクトによる校舎内外の物的な環境整備、教育活動支援プロジェクトによる授業補助等の人的な環境整備が着実に進展している。専門業者や教員に委ねることも必要だが、保護者や地域の力でできることは「協働」で汗を流し、整備していくという姿勢が、子ども心を耕す活動にもつながった。
- 第三に、学校図書室が活性化し、人のぬくもりが感じられる図書室環境に一步近づいたことである。これまでは、生徒指導や学校行事、さらには部活動に多くのエネルギーを注ぐあまり、学校図書室の充実等に力を入れるだけのゆとりがなかったというのが実情であった。地域密着型教育の推進事業の大きな柱に学校図書館支援プロジェクトを据えたことにより、図書室の本の整備や読書環境の整備も、目に見える形で変化を遂げてきている。その結果、学校図書室が子どもたちの身近なものになり、利用する生徒も確実に増えてきている。図書室が魅力ある場所に変心しつつある。

◇次回は、「2年間の成果と課題(その2課題)」について述べてみたい。

第一中学校ホームページ「校長のつぶやき」より

第11回 2年間の成果と課題 (その2課題)



○モデル校の役割は何か。八戸市教育委員会のモデル校指定実施要項の趣旨によると、それは「実践を通して、保護者および地域の住民の学校の運営への参画の在り方について研究を行う」と明記されている。実践内容として、具体的に以下の3点が示されている。

- (1) 教育活動における学校・家庭・地域のいっそうの協力体制の構築
- (2) 「開かれた学校づくり」の推進
- (3) 「地域ぐるみの教育」への支援を通してのまちづくり

これらを踏まえて、地域密着型教育の推進事業に取り組んできた。
課題を3点にしばり述べてみたい。

◇職員の参画意識をいかに高めるか

授業や学年行事等に地域人材を生かす取組を強化し、「地域なくして学校なし」の意識をさらに高めることが必要である。職員や保護者が核となって努力し、そこに地域住民を巻き込んで地域ぐるみの教育活動を展開していくのが自然の成り行きである。そのためには、職員が「地域密着型教育」の必要性を真に理解し、職員の参画意識を高めていくことが不可欠と感じた。

◇保護者や職員リーダーの負担をいかに軽減するか

4大プロジェクトの活動が一過性の活動に終わらないように組織ぐるみで継続的な取り組みが必要である。現状は、スタッフが固定化しやや加重負担になっている。

P T Aでは、従来からの各委員会の仕事とプロジェクトの仕事が重なり多忙感が増している。

職員では、4大プロジェクトを推進するための計画や当日の活動や会議への出席など、学級指導や部活動指導等との兼ね合いなど、精神的・身体的な負担が大きく、今後、検討の余地がある。そのためにも、必然的に増える傾向にある夜の会議等を見直していく必要があると感じた。

◇協働の学校運営や教育活動をいかに設定するか

地域の声を具現化していくには、学校施設の開放のみならず、協働の学校運営や教育活動を設定したい。共に汗を流す活動を通して、地域の学校を地域みんなの手でより良いものにしていこうという意識を醸成していく必要がある。そのためには、学校側からの注文や要求ばかりではなく、生徒や保護者の意見や要望を取り入れた活動を設定し、誰もが気軽に参加でき、充実感が味わえる活動を設定することが有効であると感じた。

◇次回は、「学校づくりはまちづくり」について述べてみたい。

第一中学校ホームページ「校長のつぶやき」より

第12回 学校づくりはまちづくり



○モデル校指定を受けて良かったと心底思っている。学校経営に、「ぶれない軸足」を得ることができた。地域密着型教育が目指す地域ぐるみの教育活動という視点、学校づくりはまち（地域）づくりにつながっていることも実感した。共に汗を流す協働の活動こそ学校や地域づくりの原点であることも確認できた。

○2年の準備期間を経て、ようやくスタートラインに立つことができた。成果も課題も、ほんの一端に過ぎない。地域密着型教育の真価が問われるのは、まさにこれからだと感じている。3月2日に実施された2学年の「立志式」には、準備した150席が埋め尽くされ驚いた。昨年度までは20名から30名前後の参観者だったことを思えば、確実に保護者や地域の眼が中学校にも注がれ始めている。4月から、一中の顔として活躍しようと一人ひとりが力強く立志宣言をした2年生にとって、埋め尽くした保護者の温かなまなざしが、何よりの糧となったにちがいない。

○本日、3月5日発行の「ブルースカイ」第13号に掲載された4大プロジェクトリーダーの感想を読み、地域密着型教育の趣旨がしっかりと受け止められていることに、苦楽を共にしてきたリーダーたちの熱い思いを感じた。これこそがモデル校の大きな成果である。

～以下、「ブルースカイ」第13号から一部抜粋～

□学校図書館支援プロジェクト 杉本リーダー

これまでの1年余りにわたる活動を通しての思いは「迷→苦→楽」と変わっていききました。生徒のために、「居心地の良い図書室づくり」を目指して作業しました。本の内容を紹介し、生徒に興味を持ってもらう「新刊図書コーナー」は、大変好評でした。また、四季折々の図書室装飾は工夫をこらし、楽しみながらの作業でした。すべての取組は生徒のためであり、声をかけられて参加するのではなく、真の参画を目指して頑張っていきたいと思います。

□教育活動支援プロジェクト 関下リーダー

当プロジェクトは教育活動を支援することで、先生方が生徒達と向き合える時間を少しでも多く作れるように取り組んできました。学校と保護者・地域の皆さんとの距離は、取り組む前と比べ確実に縮まってきていると実感しています。しかし、活動の企画段階から先生方への依存度が高く、また負担が多くなっているようにも感じます。先生方が生徒と向き合う時間が増えているかどうかとも疑問です。今後の課題として考えていく問題だと思います。

□環境整備支援プロジェクト 出町リーダー

事業の内容としては、主に清掃奉仕・校内整備活動が主体となりますが、保護者や地域の皆様には比較的にかわりやすい事業だったと思います。この事業をいかに参加型事業にするかが私の課題だったように思います。そのため、諸先輩を見習い、ポスターの制作をして各町内の掲示板に掲示していただいたり、ブルースカイを通じて活動の内容を写真で伝えてきました。おかげさまで、今年度は保護者のみならず、OB、学区内の地域の方々にもたくさんのご協力を賜うことができました。

□情報発信支援プロジェクト 笹サブリーター

活動の2本の大きな柱は、ほぼ毎月1回発行した「ブルースカイ」と一中ホームページ内に地域連携ページを作成し、日々更新していることです。今年度は町内にも配布した効果か、保護者以外の活動参加者の増加があり良かったと思います。反省点は、タイムリーに報告するために、他のプロジェクトの委員長や担当者に負担をかけてはいないかということ。また、活動委員が実にな少ないため、活動の継続も厳しいことです。

○地域密着型教育の実践は多様であっていいと感じている。それぞれの地域の特色を最大限に生かした取組があつていい。一過性の活動にするのではなく、学校や地域に深く根を張る地道な取組がいい。

第 4 章 平成 21 年度地域密着型教育フォーラムの記録

第1節 「学校・地域連携の意義と視点

～八戸市地域密着型教育推進事業の特色と課題～

日本大学文理学部 教授 佐藤 晴雄 氏

1. 学校／地域協働をめぐる社会的問題

(1) 児童生徒をめぐる状況

- ①生活リアリティの不足
- ②自己効力感の欠如
- ③知識の断片化
- ④人間体験の不足

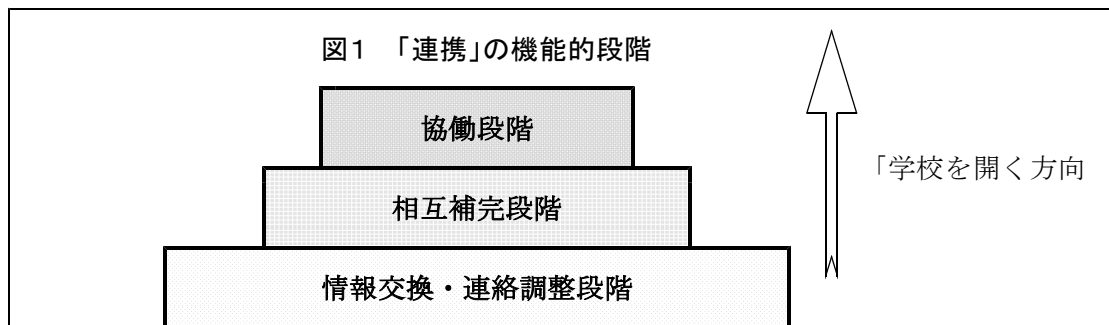
(2) 児童生徒理解の新たな視点

- ①地域協働による複眼的理解
- ②学校外の生活過程における児童生徒理解
- ③児童生徒の生活と学習の連続的理解

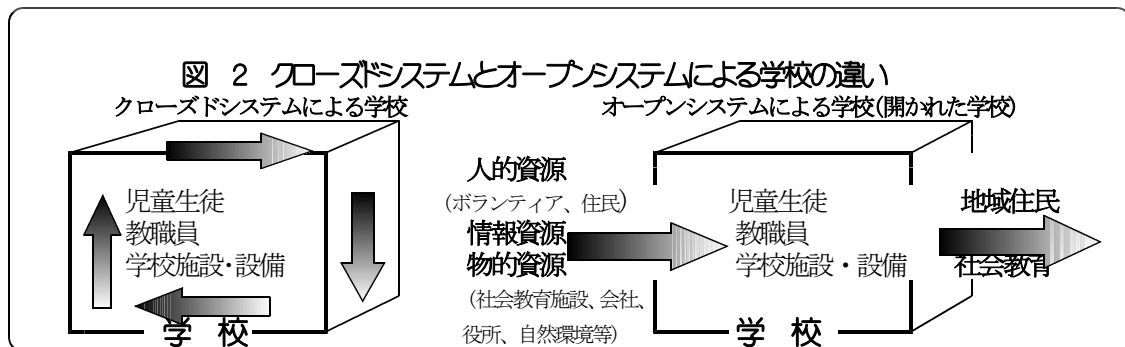
2. 学校と地域の協働とは何か

(1) 学社連携の分類

- 学社連携
- ①情報交換・連絡調整的連携
 - ②相互補完的連携（狭義の学社連携）
 - ③協働的連携（学社融合）



3. 開かれた学校づくりとは何かークローズドシステムからオープンシステムへー



(2) 学校と地域の協働の意義

①子どもにとって

- (a) 児童生徒の学びが深まる(専門的な学び、新しい学び)
- (b) いろいろな人と交流できる(新たな人格形成)
- (c) 教師で指導困難な学びができる
- (d) 体験が豊かになる

図3 認識の位置

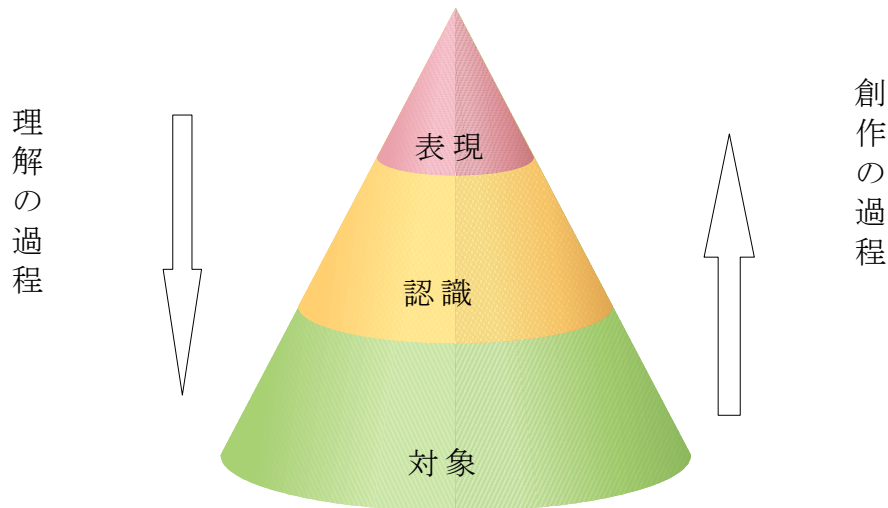
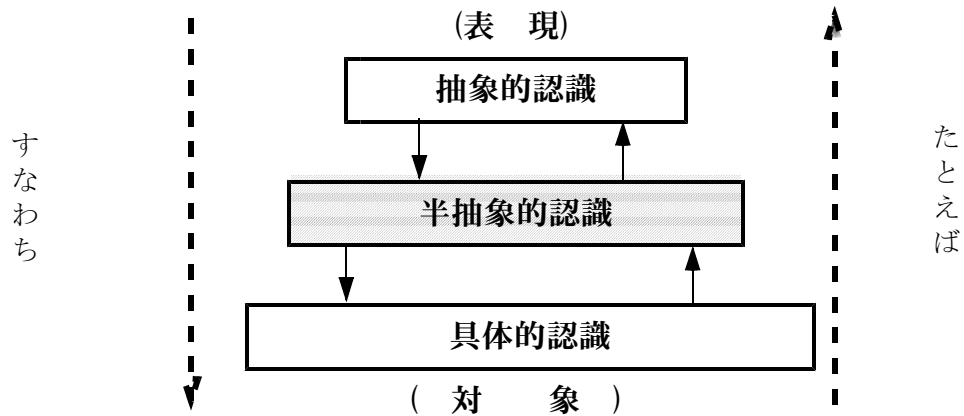


図4 認識の段階



②学校にとって

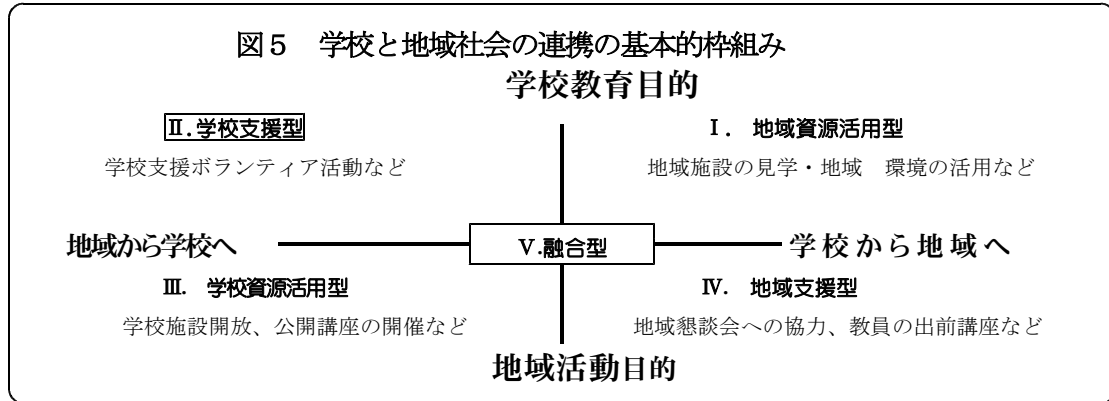
- (a) 学習活動に高い専門性が得られる→学びの深化
- (b) 学校の機能不足を補える→社会性の育成
- (c) 学校のスリム化につなげられる
- (d) 地域による学校理解が深まる

③地域にとって

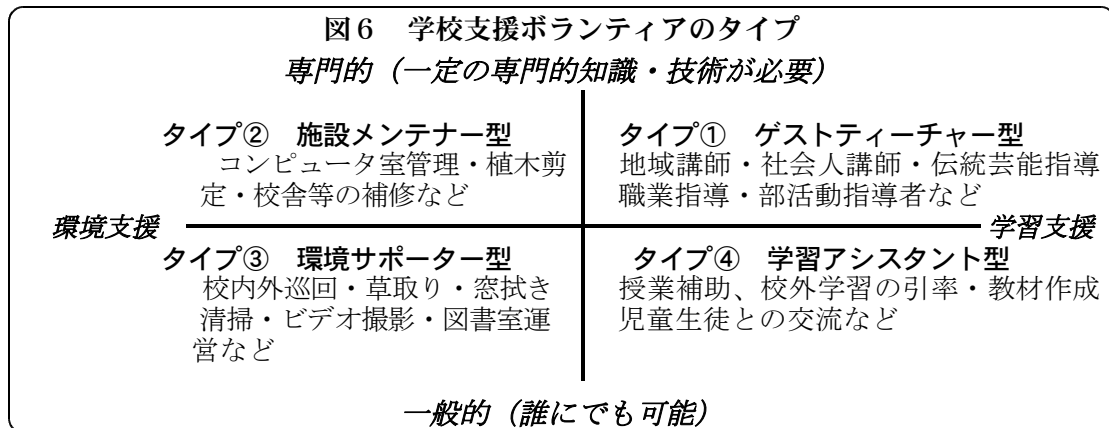
(3) 望ましい関係とは

- ① 目的と結果の共有関係（お互いにメリットがある＝互酬性）
- ② 対等な関係（上下関係でない＝対等性）
- ③ 恒常的な関係（必要なときだけの関係ではない＝恒常性）
- ④ 「創発」と「効率」という二つの相乗効果が得られる＝相乗効果性

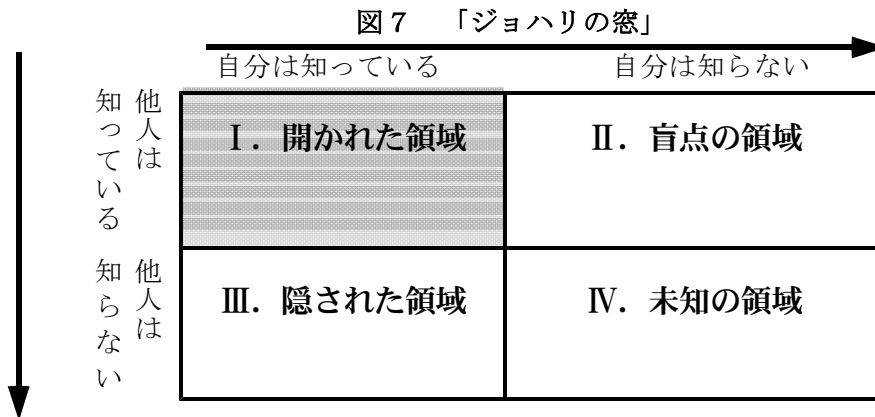
4. 学校と地域の連携の基本的枠組み



学校支援型＝学校支援ボランティアのタイプ



5. 学校と地域社会との情報交流



- (1)「隠された領域」の縮小＝
- ①保護者の学校理解の促進
 - ②地域・家庭の協力姿勢の醸成
 - ③公的機関としての責任・使命
- (2)「盲点の領域」の縮小＝
- ①児童生徒・家庭・地域のニーズに応じた教育の展開
 - ②学校・教師の社会化
 - ③児童生徒の社会化

図8 「隠された領域」の縮小

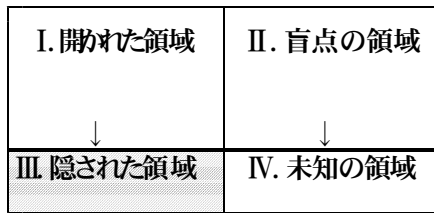


図9 「盲点の領域」の縮小

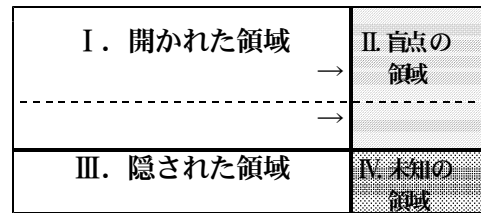


図10 誤った「開かれた学校」観

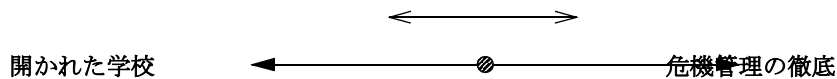
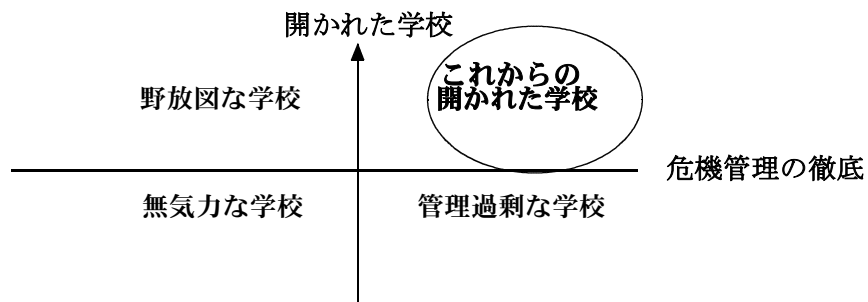


図11 これからの「開かれた学校」のあり方



6. 地域連携のポイント

- (1) 当事者意識
- (2) 相互理解
- (3) 協働活動

【参考文献】

- (1) 佐藤晴雄『学校を変える 地域が変わる』教育出版、2002年
- (2) 佐藤晴雄編『学校支援ボランティア特色づくりの秘けつと課題ー』2005年
- (3) 佐藤晴雄監修『地域連携で学校を問題ゼロにする』学事出版、2008年

八戸市地域密着型教育推進事業フォーラム

We Love 柏崎
～地域とともに歩む学校づくり～

地域密着型教育推進事業モデル指定校としての取組

平成21年11月20日(金)スウィングベリー南郷
八戸市立柏崎小学校

本校の地域密着型教育のねらい

ふるさとに誇りと愛着をもつ子供に育てる。
→生きる力を身に付けた子供を育てる。

地域に積極的にかかわる職員になる。
→保護者、地域住民と絆を深める職員になる

地域ぐるみの教育活動を進め、地域に貢献できる学校をつくる。
→保護者、地域住民から信頼される学校をつくる。

地域関係団体、PTA、ボランティア等の活動の輪を広げる。
→地域全体で子供たちを見守りはぐくむ環境をつくる。

2 学校経営方針とのかかわり

【学校経営基本方針】(要約)

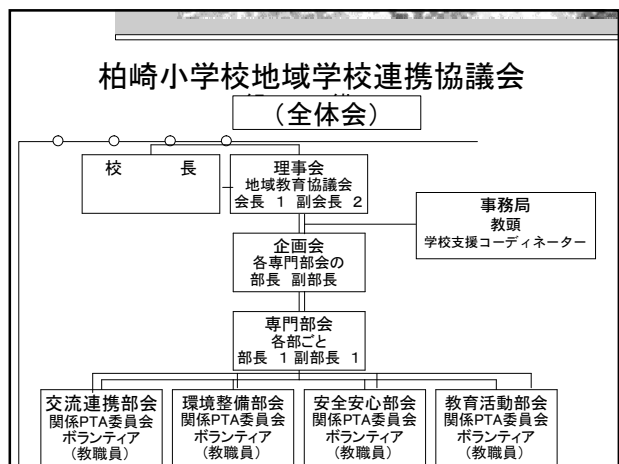
- しっかりといのちをリレーし、心身ともにたくましく生きる児童を育成する。
- 地域との連携・連帯を深め、地域とともに歩む学校づくりを推進する。

* 柏崎小学校学区のよさや特色を生かすことを基盤とする。

* できるところから、気軽に地道に実践する。

学校経営方針の具現
↓
地域密着型教育の推進

子供らの 笑顔輝く 柏崎!



4 取組における留意点

- 校長が最終決定をすることにより、様々な活動が学校の方針とずれないようにする。
- 学校・保護者・地域の様々な活動やボランティア活動の状況把握や意見交換をしやすくする。
- PTA組織と地域関係団体組織との調和と融合を図る。
- 活動の輪の広がりを急がない。

5 重点取組

20年度 <理解と周知、組織・活動>

21年度 <昨年度の課題解決>

- 保護者の、PTA活動と学校支援に関する意識を高め、ボランティア活動の輪を広げる。(保護者の課題)
- 地域関係団体との調整を図って昨年度の課題解決に取り組むとともに、地域行事への児童・保護者の参画意識を高める。(地域住民の課題)
- 今年度モデル指定校の第三中学校地域学校連携協議会との連携のあり方をさぐる。(小中連携の課題)
- 教育活動と校内研修でのより一層の推進を図る。(学校教育活動の課題)

6 地域学校連携協議会の内容(1)

理事会 <地域・保護者・学校代表が集まり話し合う場>

<20年度>

- 地域学校連携協議会の会則の承認、会長・副会長の指名、組織説明、活動計画
- 地域、保護者、学校のそれぞれの活動内容と取組状況
- それぞれの立場から見た子供の様子
- 学校関係者評価と助言

<21年度>

- 小学校・中学校、地域、保護者理事の顔合わせと共通理解
- 2年目の取組重点
- 学校の補強、移転増改築、各専門部会報告、課題等
- 学校評価中間報告、学校関係者評価及び学校運営への助言

地域学校連携協議会の内容(2)

企画会 <4専門部会の部長・副部長、校長、事務局>

<20年度>

- 各専門部会の活動内容とPTA活動との関連
- 経過報告会発表内容・参加者、今後の予定
- 各専門部会の活動状況、3学期及び来年度に向けての方向性

<21年度>

- 新専門部会部長・副部長の紹介、あいさつ
- 前年度の各専門部会の活動の確認と今年度の取組計画
- ボランティアの登録、活動状況
- 学校に感謝するメッセージボード作成についての検討

地域学校連携協議会の内容(3)

専門部会 <複数のPTA員会+ボランティア+地域>

交流連携部会 | 環境整備部会 | 安全安心部会 | 教育活動部会

- 日常や有事の際の防犯パトロール 立哨指導
- 枝伐り作業 校内清掃 除草作業
- ぶどう棚補修 ペンキ塗り 図書整理・貸し出し
- 授業支援 ゲストティーチャー 読み聞かせ
- 地域と学校との合同行事「区民運動会」
- サマーフェスタ 合同演奏会
- 幼保、中、特別支援学校との連携 など

地域学校連携協議会の内容(4)

全体会 <全保護者+全教員+全地域関係者>

<20年度>

- 地域密着型教育推進事業の理解(市教委説明)
- 地域学校連携協議会の会長・副会長、理事の紹介
- 事業・組織説明
- PTA活動とボランティア活動との関連

<21年度>

- 12月参観日 地域密着型教育フォーラム発表内容報告
- 3月参観日 地域密着型教育のまとめ報告

7 地域密着型教育のねらいはどの程度達成されたか

(1) ふるさとに誇りと愛着をもつ子供を育てるために

- 全学年が地域学習を生活科・総合的な学習の時間の中心単元とし、自然・施設・文化・人とのふれ合い活動、まとめや発表活動を行う。
- 地域行事や活動に積極的に参加し、学習に生かす。
- 保護者や地域住民とふれあう体験的な学習

1年生: 地域の中の学校	2年生: 地域のたんけん・まつり
3年生: 地域のたから	4年生: 地域の福祉
5年生: 地域の安全	6年生: 地域の歴史

学区内の探検、施設等訪問
歴史や文化について
話を聞く6年生



2年生生活科 おまつりひろば
塩町山車関係者と
幼稚園・保育園児を招待



社会福祉協会の方から
ボランティアと共に
福祉について学ぶ4年生



ふるさとに誇りと愛着をもつ子供に育ってきたか

- 70%を超える児童が、柏崎地区のことに興味関心をもつようになった。
- 地域行事への参加者は60%から75%へ増加。
- 地域への愛着を感じる子供が増えてきている。
 - ・芭蕉堂まつり
 - ・三社大祭
 - ・えんぶり
 - ・三世代交流ウォークラリー
 - ・ジュニアリーダー研修会 など
- 地域の施設・文化、人物や自然を、「柏崎の宝」として意識し誇りに思う心が育ってきている。

(2)地域とかかわる職員になるために

- 地域学習への全教員による取組。
- 生活科・総合、家庭科や社会科の授業で地域のゲストティーチャーやボランティアを積極的に活用。
- 日常の地域の安全状況把握、事故等の問題発生時には即現場に出かけて確認。
- 地域関係の会議、行事運営に積極的に協力。

地域に積極的にかかわる職員になってきたか

- 出かけた教員自身が、子供とともに新たな発見と感動体験。
 - 地域を教材化する楽しさと次の学習取組への意欲と工夫改善
 - 子供の一層の感動体験
- 地域とかかわる教育活動の改善策の話し合いや運営協力、地域行事に参加。
 - ともに地域を盛り上げようとする意識に
- 地域巡回を自ら行い、子供の安全を考え実践する教員に。

(3)地域ぐるみの教育活動を進め、地域に貢献できる学校にするために

- 地域学校運営協議会理事会・企画会・専門部会
- 区民運動会に閉会式まで全児童が参加
- 校外子ども会と集団下校
- 地域の行事などを、学校だよりに掲載
- 小中連携、幼保小連携、特別支援学校との連携の一層の推進
- 柏崎地区自主防災訓練への協力
- 町内会長への連絡係児童 等

地域に貢献できる学校になってきたか

- 学校の教育活動にかかわってくださる地域の方々・回数の増加。
 - 町内会長や関係者、防犯関係者、公民館関係者
中学校、幼稚園・保育園、八戸盲聾学校 等
 - 学校が地域の方にとって来やすくなっていることの表れ
- 理事会で、「ともに地域の子供を育てている」という意識を醸成。
 - それぞれの立場から、子供の様子や取組、子供を巡る大人の様子や活動状況、問題点等を共有、意見交換
- 子供が地域の方の顔を覚え、活動を知っていること。
 - 将来的に地域に貢献できる大人になっていくことに

(4)地域関係団体、PTA、ボランティア等の活動の輪を広げるために

交流連携部会

環境整備部会

安全安心部会

教育活動部会

活動の輪が広がってきたか

- ボランティアの数と種類の増加。
- やって楽しいと感じている。
- PTA委員会同士の情報提供や協力が生まれている。
- それぞれの活動が子供・保護者・地域に伝わってきている。

交流連携部会

区民運動会 サマーフェスタ 合同演奏会 幼保小中連携

父親の会主催 エコサマーフェスタⅢ

今年初！
柏崎地区
自主防災訓練

課題解決後の区民運動会

全児童が開会式まで参加
全町内会も開会式で初めて行進
昼食は、児童がおにぎり等を持参し
みんな笑顔

いつもと違う顔ぶれが！
特に若い方が多くなった！

中学生も競技に参加し
盛り上げ一体感を

環境整備部会

図書ボランティア、プール監視ボランティア、PTA環境厚生委員会、父親の会

活動が定着化した図書ボランティア
卒業しても協力

感謝の心をこめて、学校をきれいに

地域の方も、保護者も、子供も、教員も、みんなが協力した1日

プール更衣棟ペンキ塗り

校舎内清掃

安全安心部会

図書ボランティア、安全パトロール協議会、防犯協会、安全協会、PTA防犯ボランティア、PTA生活指導委員会、交通安全母の会

校外子ども会では、5年生作成の安全マップを活用

町内会長・役員、
諸団体長、保護者が
参加して当たり前の姿に。

教育活動部会

授業支援ボランティア、読み聞かせボランティア
クラブ活動ゲストティーチャー、部活動指導

結構楽しいわ！
また来ていいです
か？

家庭科の実技や
校外学習時の
授業支援

わかった！
できた！

とても助か
ります。次回も
ぜひお願いし
ます！

保護者・地域の方々の声

＜保護者＞

○授業へのボランティアはできるかどうか不安だったが、やってみたら意外に楽しい。

○自分が来ることで、子供も先生も喜んでくれるのがうれしい。

○ペンキ塗り作業には地域の方もお出でになった。次は樹木の枝伐りの計画をしなければ。

△ 保護者全員がPTA委員会に入ったけど、やはり学校に来る人は同じです。

＜地域＞

○子供や親の顔を分かってきた。

○あいさつや声をかけられるようになってうれしい。

○学校の様子が分かってきた。

○学校に話しやすくなった。

○今度は、こんなことをお願いをしてみようか。

△ 地域の活動や行事に参加する人や町内会加入者をもっと増えてほしい。

学校支援地域本部とのかかわり

＜コーディネーター＞

2名 月・水・金

- ・教頭を含め教員の事務時間の負担軽減に。
- ・地域学校連携協議会だより「We Love 柏崎」の発行。

(小・中合同)

- ・地域への周知、生の声を把握。
- ・細やかな気配りや学校側への進言、様々な活動を円滑に。

＜予算＞

- ・欠かせない消耗品費

地域配布用のたよりやボランティア連絡に必要な印刷用インク・紙、封筒、電話代など。

- ・幅広いボランティア活動が可能に。

＜地域連携室＞

余裕教室利用 小中共有

- ・コーディネーターの活動、ボランティアの方々の打合せや専門部会の活動、地域の方々と交えた話し合いの場にも。
- ・小中の情報交換と、互いの仕事に関する情報共有。

＜地域連携室＞

余裕教室利用 小中共有

- ・コーディネーターの活動、ボランティアの方々の打合せや専門部会の活動、地域の方々と交えた話し合いの場にも。
- ・小中の情報交換と、互いの仕事に関する情報共有。

8 地域密着型教育による成果

- 子供が地域に興味関心を。
- 教員の地域とのかかわりが自然に。
- 保護者の応援意識にひろがり。
- 地域との協力体制がスムーズに。
- 地域・保護者・学校が、「ともに地域の子供を育てる」意識に。

地域学校連携協議会の取組

教育活動における取組

保護者の活動

9 地域密着型教育の課題(1)

■ ＜学校＞

- ・教職員の組織的な活動を。
- ・中学校と連携して、継続した取組を。
- ・子供たちはもちろん

保護者や地域の方にも地域への誇りと愛着を。

- ・授業に生かせる人材の発掘、地域ボランティアの拡大を。
- ・会議の効率的な運営を。

(理事会年3回、企画会3～4回、全体会1回)

■ ＜保護者＞

- ・子供や学校のために活動することが楽しいと思えるように。
- ・負担感の軽減と、応援意識の拡大を。
- ・地域の一員として行事等に参加する意識の高揚を。

地域密着型教育の課題(2)

■ ＜地域＞

- ・学校応援活動に携わる活動やボランティアの広がりを。
- ・小中共通の理事は、各校からの諸案内状が届き多忙に。
- ・地域と学校のさらなる連携・連帯の活動を。

■ ＜事業全体＞

- ・コーディネーターの従事時間の増加。
- ・推進のための予算の確保。

10 学校の願い

地域とともに歩む学校

ふるさとに誇りと愛着をもつ子供の育成

＜生きる力を身に付けた子供＞

「柏崎が好き、学校が好き」と言える子供、教職員、保護者、地域住民が増えること。

子供らの 笑顔輝く 柏崎!

真の参画を目指して ～すべての取組は生徒のために～

協働・共育の風土を
はぐくむ
プロジェクトチーム



八戸市立第一中学校
校長 伊藤 博 幸

日時 H21.11.20
会場 スワンデバリーHANGO

H20.8.26「地域学校連携協議会」発足 そして迎えた8.31「雨の体育祭」

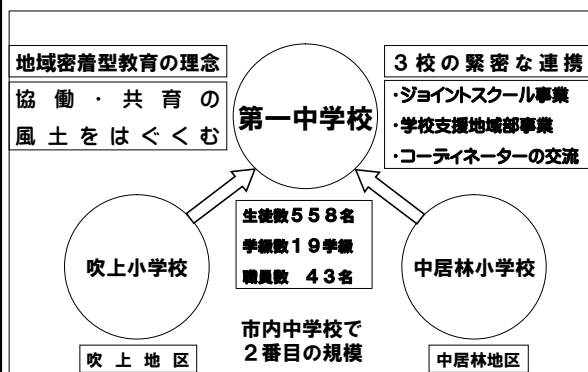


一中「地域密着型教育」の原点



◇「地域密着型教育」とは何か。その答えがこの雨の体育祭にある。終日止まない雨。黙々と働く大人。スポンジを手に一心に雨水を吸い取る生徒。グラウンドが生徒達の笑顔と歓声で一つになった。これから目指す「協働・共育」のあるべき姿を教えられた。

第一中学校区の概要



「学校経営方針」を練る

～「地域密着型教育」の位置づけを明確に～

学校経営の基底
に据えるべきもの

- 生徒指導の安定
- 学力の向上

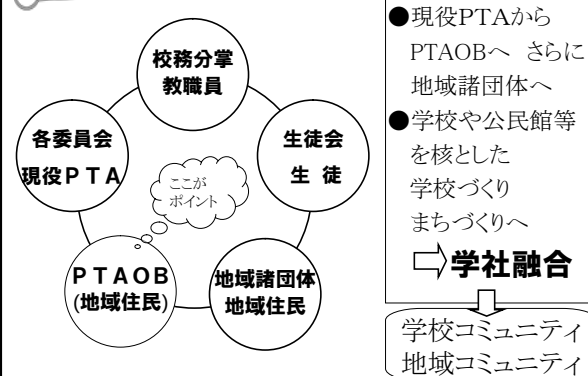
課題

いかにつなげるか！

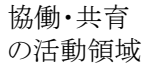
地域密着型教育
モデル校の実践

- 既存組織の活用
- 参画意識の醸成

Point 既存組織をいかにつなげるか



学 校
(教職員)



学校運営
への参画

教育活動支援

[illegible][illegible]

專門部会



企画・推進部会

詳

◆PTA本部役員、各学年委員長、4大プロジェクトのリーダーとサブリーダーが参加。プロジェクトの統括。

◆4大プロジェクトの
全スタッフが一堂に会
し、各プロジェクトの
進捗状況や今後の活動
についての情報交流。

H21.10.5「合同会議」でアンケート（詳細は別紙《参考資料1》を参照）

◇体育祭の支援に子どもたちの近くでPが活動しているのは大変良かった。
無理のない形で保護者が楽しんで支援してもらえるよう、各プロジェクト
で意見を出し合いたい。(教員)

◇昨年、初めて校長先生から地域密着のお話を伺った時は、よくわからなかった。とりあえず、昨年1年間、プロジェクト以外にも出られそうなところはすべて参加した。すると、校長先生のおっしゃっていた意味がズバツとすべてわかった。なんでもかんでも言うよりも、体験した方がはやすい。どうしたらよいのかも自然にわかってくる。それにどれも楽しい。(保護者)

◇奉仕活動後のコミュニケーションが必要と思う。作業後にハイ終わりではなく、お茶でも飲みながらの情報交換が、実は最も重要な意味を持つのではないかと。(PTAOB)

◇どちらが主として活動するかと、お互い遠慮がちになった部分もあった。最初からみんなで活動内容を話し合っていくのがよい。そのためには、学校側も地域側も相当の時間を割いて参加していくことが必要。(教員)

◆自分を含め全体的に、ホームページへの認識(意識)が相当に薄い。
保護者、協力員等から操作について詳しい方を選定して、PTA全体での
更新作業の継続。(保護者)

Point 「地域密着型教育」ってなに？

■「地域密着型教育」の趣旨をいかに周知させ、参画意識を高められるかがポイント！

- ◆生徒に周知させる際、「道徳」や「特別活動」などの授業を活用するのが効果的。今年の「道徳」「特別活動」の実践例。別紙《参考資料2》《参考資料3》を参照。
- ◆職員への周知も大事。職員会議等での1回きりの説明だけでは定着しない。実際の活動場面を設定し、実践を繰り返しながら、「地域」と「学校」とのかかわりを具体的に学んでいくことが、一過性の施策に終わらずに、特色ある学校の取組として定着していく。
- ◆地域や保護者への周知は広報活動を繰り返し行い、まずはボランティア活動に参加してもらい、少しずつ理解を促す。

「地域密着型教育」の成果

- 来校する保護者等が増えた
 - ◇学校のありのままの姿に触れる機会が多くなった。教員と保護者とのコミュニケーションの場が増えた。
- 教育環境の整備が行き届くようになった
 - ◇築40年の古い校舎ゆえに、目に見える活動として子どもの心をはぐくむ教育効果が大い。
- 知的環境としての学校図書館が整いつつある
 - ◇人のぬくもりが感じられる図書環境が整備され、子どもの読書意欲や学習意欲を高めている。
- PTAの活動が活性化してきた
 - ◇生徒に目に見える形で還元される活動が増え、生徒と保護者の関係が身近なものになってきた。

「地域密着型教育」の課題

- 職員やPリーダーの負担増をいかに減らすか
 - ◇スタッフが固定化し加重負担になっている。Pでは従来の委員会とプロジェクトで多忙感が増している。
- 職員と保護者等の打合せ時間をいかに確保するか
 - ◇プロジェクトの充実には打合せが不可欠。学校で夜6時半から9時近くまでの会議がほとんどである。
- 協働の「学校運営や教育活動」を設定できるか
 - ◇地域の声を具現化していくには学校施設の開放から協働の学校運営や教育活動を考える必要がある。
- 保護者等が参加して楽しい活動を工夫できるか
 - ◇学校側からの注文や要求ばかりではなく、生徒や保護者の意見や要望を取り入れた活動を設定する。

学校や地域を取り巻く現実

(デリー東北 H21.11.15の記事より)



Point 多忙化軽減の視点

① 今あるものを見直す

⇒ 既存の学校行事や教育活動を協働の視点で

② 細く長く楽しく

⇒ できる事をできる時間にできる範囲内で

③ 本当に必要な支援にしぼる

⇒ 生徒へ還元される支援活動を優先的に

「地域密着型教育」の今後

- 職員の参画意識の醸成
 - ◇授業や学年行事等に地域人材を生かす取組を強化し、「地域なくして学校なし」の意識を高める。
- 組織の見直しと「地域密着」の継続
 - ◇Pや職員と十分に協議し、組織再編や次年度の方針等を明確にし、保護者や地域への周知を図る。
- 計画段階から共に参画できるシステムの構築
 - ◇職員会議等への出席をも含め、保護者等が計画段階から協働体制で取り組めるシステムをつくる。
- 情報発信(広報)部門の組織強化
 - ◇広報活動を充実させ、地域住民に速やかに情報を提供し、学校運営への参画意識を高めていく。

H21.11.4 ようやく ホームページ リニューアル



中 地域密着型教育のページ

～地域とともに子どもを育てる第一中学校区の教育～

地域密着型教育とは

今地域内11中学校の運営にあたり、児童生徒が生活する地域の利便です。今地域内11中学校の運営にあたり、児童生徒が生活する地域の利便です。今地域内11中学校の運営にあたり、児童生徒が生活する地域の利便です。

ここをクリック

H21.12月～ 掲載

校長先生のつぶやき

これまでの1年余にわたる八戸版「コミュニティスクール」の実践を通して、校長として思い悩んだこと等、率直に語りたい。緒についたばかりの新たな施策の成果と課題を整理し、次年度の学校経営に生かしてまいりたい。

遅々として進まないが確かな手応えを感じている。そんな校長の日々のつぶやきを伝えたい。

「地域密着型教育」実践のまとめ

①組織の基本は学校応援隊

◇組織は人。学校や子どもへの温かな思いを持つ人のコミュニティづくり。肩書きや評論家はいらない。

②参加してよかったと思える活動内容

◇「細く長く楽しく」をモットーに、誰もが気軽に参加でき、充実感が味わえる活動を設定すること。

③学校を開くということ

◇保護者や地域の声を大事にし、「学校施設」のみならず、「学校運営」「教育活動」こそ開く努力を。

すべての取組は生徒のために

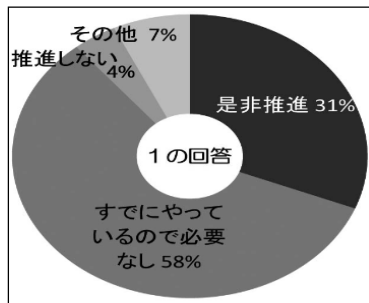


第 5 章 各研究団体の分析した「地域密着型教育」

第1節 八戸市中学校教頭会研究実践報告

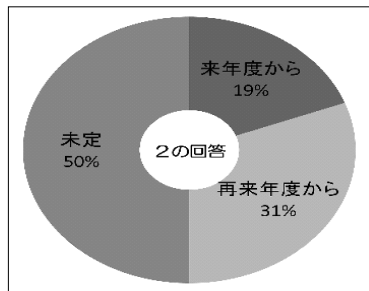
研究主題「学校・保護者・地域が密着し、生徒の確かな学びと豊かな育ちに資する協力体制のあり方～地域密着型における教頭の役割～」

1. 地域密着型教育をどのようにとらえているか。



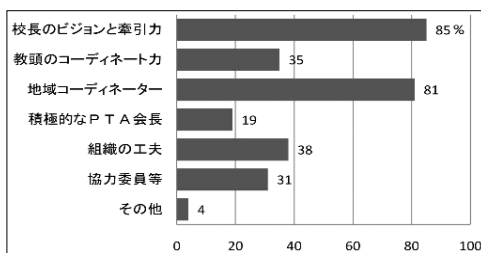
「是非推進」「すでにやっているのであえて必要なし」、その他の「大切だと思うが推進まではいかない」をあわせると実に90%近くになる。これは、地域との密着の大切さを肌で感じているととらえることができる。しかし、「あえて必要なし」の学校も、ここ2～3年のうちに取り組む必要があるのも確かである。

2. 貴校の準備(心準備を含め)の状況はどうか。



各校の推進準備としては半数が未定であるが、いきなり立ち上げることは難しいので、少なくとも半年から1年の準備期間が望ましい。島守中や美保野中や田代中などの小規模校では日々密着型だと考えることもできる。全くはじめて取り組むというものではないとすれば、既存の組織等を工夫することによって、さほど困難でないようにも思う。重要なのは、趣旨を地域住民・保護者・教職員に十分に説明・納得してもらうことである。

3. 地域密着型教育を進める あるいは 継続するために必要なもの

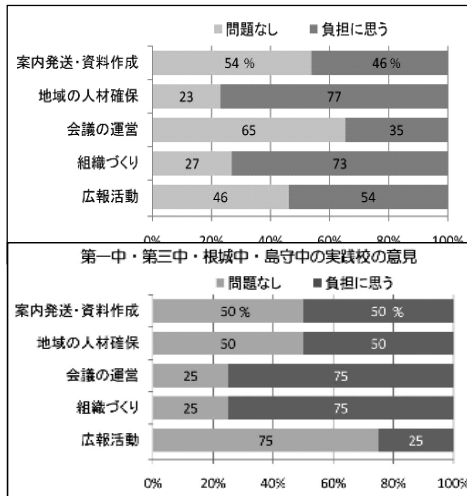


地域密着型教育を推進・継続には、「校長の地域密着型教育に対するビジョンと牽引力」「教頭を助ける地域コーディネーターの確保」の重要性を感じている教頭が実に多い。実践校4校の教頭も同様である。また、全体では、「教頭のコーディネート力」「組織の工夫」「地

域の中の協力委員等の存在」がほぼ同じ割合で、どれも大事だというとらえ方をされている。実践校では、「協力委員等の存在」を2校であげている。組織の工夫に関しては、既存の組織をうまく活用し負担なく実践しているものと考えられる。

自由記述欄には、組織の難しさを訴える意見が多い。第一中では、既存の組織を利用して、PTA図書委員会は、地域密着型の図書支援プロジェクトのように作っており、さほど問題はないのではと思ったが、PTA図書委員会の仕事と図書支援プロジェクトの両方の仕事があって、多忙感を抱いている保護者もいた。したがって、地域密着型教育推進のための組織のあり方は、かなり重要なものであろう。

4. 地域密着型教育に関わる教頭の業務と負担



概して「負担に思う」が多くを占めているが、とりわけ「地域の人材確保」「組織づくり」の難しさを懸念している。これは、実際動き始めるには、必要不可欠なものであるからである。実践校の意見としては、「組織づくり」の苦労は多い。また、実践されていない学校の「会議の運営」問題なしに対し、実践校では実際に会議が増えたり、夜遅くの会議・会合のため、負担感が高いようである。

自由な意見の大半が、「地域の人材確保」「組織づくり」と「教頭の多忙感」を懸念している。今までないものに取り組むわけであるか

ら、少なくとも負担は減ることはない。我々が考えるべきは、いかに機能的に無駄を省いた運営を行うかだ。

しかし、逆の考え方もある。今まで以上に、学校に目を向け協力してもらうわけだから、多少の負担は仕方がない。むしろ、必要なことなのかも知れない。いずれにしても、ただ忙しくなったのでは、やる意味もなくなる。それを払拭できるのは、成果が現れ、達成感や満足感が得られるようになることである。

5. 地域密着型教育と生徒の関わり

地域密着型教育への生徒の関わりというと「地域行事への参加やボランティア活動」がやはり多く、今まで成果をあげてきていることを実感している。しかし、必ずしも「地域行事への参加やボランティア活動」が定着しているとは言えない学校もある。この点に関しては、自校の特色を吟味し、できることは何かをじっくり考えることが大事だと思う。

また、「どのように関わればいいか」への意見としては、地域行事等への参加はもちろんであるが、「計画等の会議の段階で生徒が参画する」あるいは「地域の中の自分という気持ちを抱かせる等の気持ちや意識の面を高める」ことが、これから重要視されていくことではないか。

地域密着型教育の根底には、地域の子どもは地域の手で育てることがある。したがって、「生徒と地域の方の直接的で教育的なふれあいの場を設定する」と同時に、生徒が地域に包まれているという意識が芽生えるような参加の仕方が望まれる。

6. 地域密着型教育に関して必要な予算

- 人件費…手当・活動後の謝礼・講師謝礼・保険代・コーディネーターや協力してくださる方々への最低限の必要経費・人材を確保し依頼するための費用・トラクターや作業機械の燃料、肥料等の運搬経費、農具等
- 消耗品費…映像関係・紙・記録集作成費・事務用品・封筒・用紙代・インク代

塗装関係物品・ベンチ等の材料費・会議費（会議の際の湯茶・菓子等）
●通信費…各種文書の発送・資料送付代・切手・振り込み料・携帯電話・電話代

コーディネーターをお願いするためのお金や活動するための資金をどこから工面するかが大きな課題である。無償ボランティアを募るしかない状況も考えられるが、そう簡単に採せるとは思えない。ただ、実践してみて感じるのは、コーディネーターは、日々活動しているわけではなく必要なときだけと考えれば、また方向性も変わってくる。

7. 「参加」から「参画」へ

【 ①地域・保護者が参画している例 】

- 毎月1回、学校運営（経営方針、行事等）について説明し、保護者からのアイデアや要望を受け入れるとともに、保護者への協力を依頼している。
参加者：校長、教頭、教務、生徒指導、学年主任・副主任、PTA会長・副会長、学年委員長、コーディネーター
- すこやかみなみネット事業で、健全育成と安全確保のために参画していただいている。例）年2回の情報交換会での、事業内容についての協議
- 図書ボランティアとして、図書室の運営・管理、生徒にどのようにしたら読んでもらえるかなどの企画など。肩肘張らずに、本当に好きな人同士で楽しくやっている。
- グッジョブでの企業の開拓、企業へのお願いや挨拶回り。
- 学区民運動会・体育祭（模擬店の運営）・文化祭（食堂・バザーの企画・運営）
- 廊下等の壁のペンキ塗りや校地内草取り作業。
- ・親父の会 ・体育祭、文化祭の手伝い ・吹奏楽部の定期演奏会
・虎舞、湊沖揚げ音頭 ・みやこ歌の参加 ・地区教育懇談会
・環境整備（除草作業） ・夜間巡視活動 ・みなとフェスタ ・みなと七夕祭り
・PTA研修旅行 ・風鎮祭 ・湊地区新年を祝う会 ・3校合同スポーツ大会
・各PTA委員会活動 ・湊ふるさと館運営 リサイクル活動 等
- 地域（PTAOB）のコーディネーターが3名おり、地域の声を聞きながら企画している。例えば学校の廊下の壁面のペンキ塗りを地域のペンキ会社の協力を得て、PTAOBや保護者、生徒が行っている。
- 学区教職員歓送迎会の企画・運営（小・中PTAが持ち回りで主管となる）
- 地区体育振興会主催のマラソン大会（本校会場）

【 ②参画してもらうために必要な工夫 】

- 学校、協力者が話し合い、活動の目的・ねらい・できる範囲を明確にすること。
- 目指す学校像、生徒像を明確にして、そのために何ができるか一緒に考える。できることから無理せずやることが大事と思う。
- 地域住民、保護者の考え方が、以前と同じで、学校の企画や要請に応じて動くというものであるため、そこを改めていく必要がある。意識を変えていただくための話を、いろいろな場面を通じて行っていかなければならないと思う。
- 地域住民・保護者と持ちつ持たれつの関係を大切にすること。学校側の誠意、努力、一生懸命さが自然に伝わるのが信頼につながる所以その部分を頑張ること。
- 保護者の願いを十分に聞いたうえで、生徒にとって有効なものを着実に実践していくこと。依頼事項については、できるだけ具体的に示すこと。

- こまめな広報活動を行い、全保護者に活動全体を周知すること。
- 地域の方々がもっている技術や知識をしっかりと把握する。教育課程との関連の中で、活かしていけるもの、ことを関連づける。
- 組織が大切だと思うが、小回りがきき、地域をよく知るコーディネーターの存在が大きい。
- 継続的に会に参加させるようにする。情報交換にとどまらず、行動連携できる関係作りをする。地域の方が参画することで喜びを味わうことができるような運営をすることが必要だと思う。双方にメリットがないと長続きしない。
- 軌道に乗せるまでは大変だと思う。組織が機能するようになるまでは、学校の関わりは欠かせない。軌道に乗ってしまえば、親から親（先輩Pから後輩P）へ仕事内容や資料の伝達ができる。
- 「学校のために地域住民・保護者がある」という考えが中心となっているので、「地域社会があって学校がある」とならないとむずかしい。
- 本音を言い合えるような、保護者との良好な関係。
- 保険面の裏付け。

学校行事やPTA活動に地域住民・保護者が参画するということは、当日ただお手伝いでをするだけではなく、計画の話し合い等に参加するということに他ならない。そのために大事なことは、「意識を変えていただくための話」「できる範囲を明確にする」「生徒にとって有効なもの」「参画することで喜びを味わうことができるような運営」「全保護者に活動全体を周知すること」である。地域密着型教育とは何だと問われれば、「参加」から「参画」という意味合いが強い。表面的には、やっていることにさほど変わりがないからこそ、どういう意識で取り組むかが問われる。

【 ③今後の役割 】

- ①推進校は、地域住民・保護者・教職員からなる「地域学校連携協議会」を立ち上げるために、委員の選考を考える。
- ②今行っている家庭・地域社会との連携事業を、いかに「地域密着型教育」に移行するかを考える。
- ③過重負担を押さえるために、職務のスリム化を図る。
- ④教頭の負担軽減のためにも、コーディネーターの選考を行う。しかしながら、八戸市教育委員会からの人件費は、そう多くはないようなので、いつ頃、どのタイミングで活動してもらうかを考える。
- ⑤地域住民・保護者はもとより、教職員に「地域密着型教育」の趣旨を理解させるために、教頭自らが趣旨をきちんと把握する。

「地域密着型教育」は一言で言えば、「協力」から「参画」がキーワードである。例えて言えば、「環境奉仕作業に来てお手伝いをする」ことから、「どういう奉仕作業が必要か」「どのように行うか」の計画に参加することである。表向きは同じに見えても、中身と意味が全く違う。

この事業の推進にあたって、職員室を経営する教頭が消極的では、事はうまく進まない。この取組によって生徒が変わった、学校が変わったという成果を手にするように、教頭がもっともっと推進に携わっていくことが重要だと感じる。

第2節 八戸市小学校教務主任会実践報告

研究主題「地域密着型教育推進事業と学校関係者評価の実際」

1 はじめに

【主題設定の理由】

八戸市では、平成 20 年度から地域密着型教育推進事業が家庭・地域社会との連携による地域ぐるみの教育活動として進められてきている。現在、平成 20 年度からの小・中学校各 1 校ずつ、21 年度からの小学校 6 校、中学校 3 校のモデル指定校で地域密着型教育の実践が進められている。今後、八戸市内各小・中学校でも地域密着型教育の推進が求められる。

今まで各校では、小・中学校ジョイントスクール推進事業、幼保小連携推進事業を通して、子どもの発達・成長に沿った各学校種間の連携を進めてきた。それらとも関連させながら地域密着型教育を進めて行くことが必要と考えるが、不安なところや不明なところも多いと思う。そこで、現在事業を進めているモデル指定校での組織、手順、取組状況を明らかにし、今後の地域密着型教育のあり方の手がかりとすべく主題を設定した。

【研究のねらい】

平成 20 年度、21 年度八戸市地域密着型教育推進事業の取組状況を明らかにし、実践事例を示すことによって、各校での地域密着型教育の推進のために役立てる。

2 地域密着型教育推進事業の概要(省略)

3 地域密着型教育推進事業モデル指定校の実際

(モデル指定校7校へのアンケート調査より)

(1)地域学校連携協議会について

- ①名称 地域学校連携協議会 7 校
- ②構成人数 7 校の人数はすべて異なる。
(10 人、11 人、12 人、13 人、15 人、16 人、17 人)
- ③会長の立場 地区自治会連合会長 1 校、PTA 会長 6 校
- ④学校代表を除く構成メンバー

・PTA 会長 (7 校)・防犯協会 (副) 会長 (6 校)・連合町内会長 (5 校)
・子ども会育成連絡協議会会長 (5 校)・安全協会支部長 (5 校)
・その他の PTA 役員 (4 校)・体育振興会会長 (3 校)・青少協会長 (3 校)
・公民館長 (2 校)・民生児童委員 (2 校)・近隣中学校校長 (2 校)
・他保護者 (1 校)・父親委員会 (P 組織) 委員長 (1 校)
・社会福祉協議会会長 (1 校)・町内会長 (1 校)・幼稚園・保育園長 (1 校)
・近隣小学校校長 (1 校)・学校支援コーディネーター (1 校)
・おやじの会 (地域組織) 会長 (1 校)・校長経験者 (1 校)
・郷土芸能関係者 (1 校)・施設管理委員会委員長 (1 校)
・その他学校関係者以外 (2 校)

⑤学校関係者評価委員との兼務状況

兼ねている (3 校)・一部兼ねている (4 校)

⑥既存の組織を活用したか、新たに組織したか

ア 既存の組織を活用した。

PTA の組織 (4 校)・地域関係団体 (2 校)・校内校務分掌組織 (1 校)

イ 既存の組織を活用したものと、新たに組織したものがある。

PTA 委員会（１校）・地域関係団体（１校）

ウ 新たに組織した。 2 校

(2)機能・活動について

①今年度の全体会開催状況と、それぞれの回の主な議題(内容)

2回の学校(2校)

A校 1回目「立ち上げのための全体会」2回目「反省」

B校 1回目「協議会の方向性」2回目「地域の子どもの課題(学校として)」

3回の学校(5校)

A校 1回目「立ち上げ」2回目「経過報告」3回目「総括」

B校 1回目「2年目の取り組みについての確認」

2回目「学校教育アンケート」

3回目「今年度の取り組み状況、学校関係者評価、次年度に向けて」

C校 1回目「委嘱状交付、組織会、教育方針の説明」

2回目「事業について協議」3回目「今年度のまとめと学校評価」

D校 1回目「組織作り」2回目「事業報告・情報交換」

3回目「反省、次年度方向性、学校関係者評価」

E校 1回目「組織会」2回目「学校施設設備の充実について」

3回目「今年度の活動報告と来年度に向けて」

②専門部会の名称と活動内容(予定でも可)

A校 ・教育活動部会・・・教育活動補助

・図書部会・・・読み聞かせ、図書貸し出し、修理

・安全安心部会・・・交通安全パトロール、プール監視、校地内巡回

・環境整備部会・・・奉仕作業、資源回収

B校 ・安全サポート部会・学習サポート部会・広報部会・環境整備部会

・児童活動推進部会・部活動サポート部会・健康増進部会

C校 ・教育活動部会・・・学習支援、学校行事支援、部活動支援

・環境整備部会・・・校内外環境整備、資源回収

・安全安心部会・・・交通安全指導、防犯パトロール

・交流連携部会・・・小中 JS 事業、幼保小連携、学校・地区行事の
交流の推進

D校 ・教育関連事業（地域学習等協力、グッジョブ協力、部活動支援等）

・安全対策事業（熊・野犬対策、安全災害対策、災害等支援活動等）

・環境事業（学校環境整備、生き生き祭参加、虚空蔵山清掃等）

・文化事業（えんぶり、神楽継承、ほたる鑑賞、歩け歩け大会等）

E校 ・交流・連携事業（小中大運動会、小収穫・創立祭、保小交流活動等）

・学校支援部会（学習活動支援、図書館支援、環境整備支援等）

・幼保小中連携部会（生活指導・生徒指導、教員の交流授業等）

・地域連携部会（学校開放事業、地域行事への参加、広報活動等）

F校 ・PTA 委員会と同一

（学年委、部活動委、ふれあい委、安全管理委、給食委交通安全委、
環境厚生委、ベルマーク委、広報委、総務委）

・教育支援推進部会と同一

(学習活動支援、環境整備活動支援、生活安全活動支援 図書活動支援)

(3) その他

①地域密着型教育推進事業モデル指定校の現時点での成果と課題

【成果】

- ・ 少しずつではあるが確実に、学校、家庭、地域との連携、協力が深まっている実感がある。
- ・ 子どもたちに、地域の一員としての意識が芽生え始めている。(地域の人々とのふれあい、生活・総合の学習等を通して)
- ・ 各関係団体がそれぞれ行っていた活動を情報交換することにより、横のつながりに目を向けることができた。
- ・ 子どもの情報を共有することで、これまで以上に多くの目で、意識して指導することができた。また声掛けることができるようになった。

【課題】

- ・ 予算が全くないので進めるのに苦労している。

②取り組んでみての意見・感想

- ・ この学区はこれまでも PTA や地域と関っての学校行事及び学習支援が進められてきているため、新たに部会を設け進めるやり方をとらなかった。これまでやってきた内容(事業)を掲げて整理し、発展や充実を図ることにした。
- ・ 関係の方々に、何度も出席をお願いするので心苦しい。
- ・ 予算が全くないのには疑問。協議会のメンバーからも同様の声あり。

* 柏崎小学校の例(第2章「柏崎小学校の記録」参照)

4 学校関係者評価の実際(省略)

5 おわりに

6年ほど前、関東地方のコミュニティースクール先進実験校を視察する機会があった。その学校の教師は、自分から手を挙げてその学校で指導したいと希望をし、かつ、そのコミュニティーから選ばれて赴任した教師たちだ。保護者と一体となって地域のニーズに応えながら地域の子どもたちを育てるという。その学校には普段から多くの保護者が出入りをしており、人事についてもコミュニティーが関わるということだった。たった1日しかその学校で過ごさなかったが、保護者の強い態度と保護者の目を意識する教師たちの姿が気になった。

学校の教育目標・方針・実践等について、保護者の立場から、あるいは第三者的な立場からの評価をいただいて、改善を加えていくことはあるべき姿だ。また、学校だけではすでに飽和状態にある様々な問題を、地域の力を借りながら解決できれば、それもまた素晴らしいことである。保護者からの評価を気にし過ぎ、子どもに媚びる教師を生むという心配もあるが、これらの施策が理想的に機能している学校では、そのようなことは決して起こらないはずである。

教務主任会第一部会のテーマは、これから多くの学校へと広がっていく可能性のある地域密着型教育、そして、既に始まっている学校関係者評価についてである。各校よりアンケートの協力をいただいたが、早い時期だったせいか、評価結果を公開する予定はない等の回答も見られた。二つの取り組みが実際にうまく機能するかどうかは、実働部隊として働く私たち教務主任の手腕によるところが大きい。私たちは取り組みについて、より理解を深める必要がある。そのために、今回のこの資料を参考にしていただければ幸いである。